

Passo a passo.

令和元（平成31）年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教 職 課 程  
司 書 課 程  
司書教諭課程  
学校司書課程  
学 芸 員 課 程

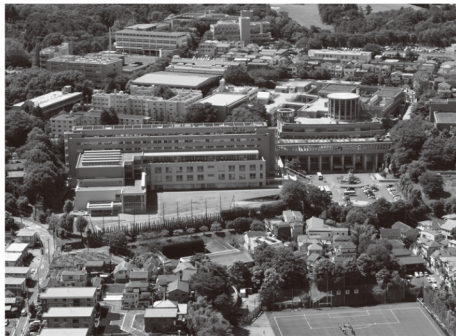
## 専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

### 社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、  
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力  
専修大学が創り育てる“知”

### 専修大学は、2020年、創立140周年を迎えます。

2020年度、専修大学は設立140周年を迎えます。その始まりは1880年にまで遡り、近江彦根藩士を祖父に持つ相馬永胤、薩摩藩士の三男に生を受けた田尻稻次郎、幕臣の家に生まれた目賀田種太郎、桑名藩士の子として生まれ満十四歳で家督を継いだ駒井重格という、藩も立場もまったく異なる四人の青年が、留学先のアメリカ合衆国で親交を結んだことでした。田尻と駒井は経済学・財政学を学び、相馬と目賀田は法律学を専攻しました。そして、帰国の暁には学校を設立し、みずからが学んだ学問を教授して有意の人材を育成しようという夢を抱き、やがて設立されたのが専修大学の前身にあたる専修学校でした。その建学の精神は「社会に対する報恩奉仕」というものでしたが、21世紀に至り、このモットーを現代的に捉えなおし、「社会知性の開発」という新たなビジョンとしました。2020年度からは、神田の新校舎が活動を開始します。併せて国際コミュニケーション学部が設置され、商学部も生田校舎から移転します。生田キャンパスと併せて、これからも専修大学は、国内はもとより、広く海外において活躍する多彩な人材を輩出する拠点であり続けるために邁進してまいります。



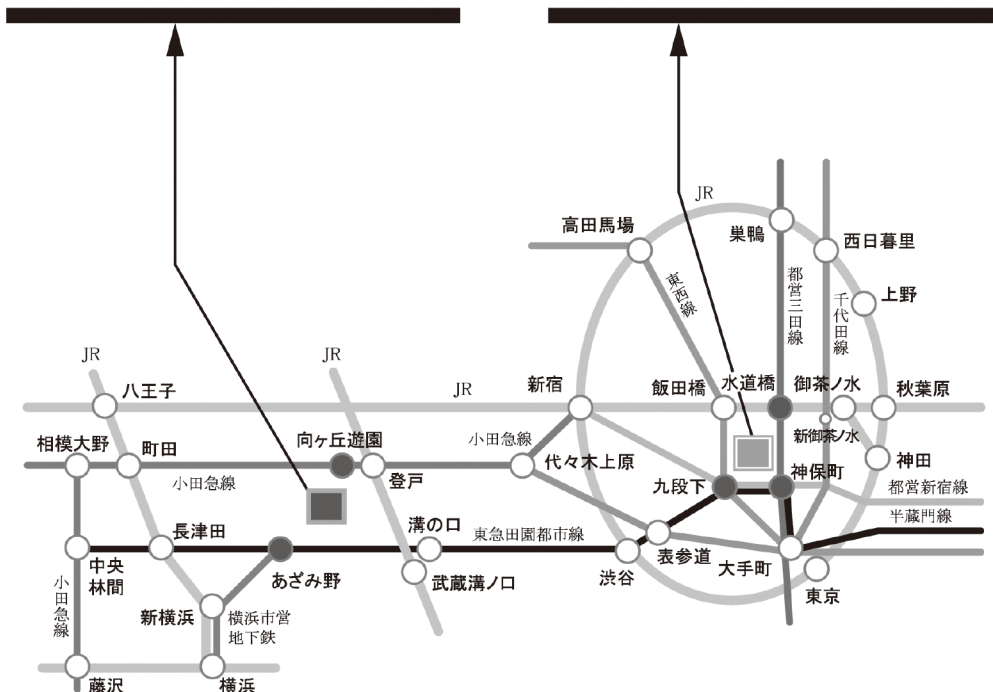
### 生田キャンパス

- 小田急線  
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)  
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄  
あざみ野駅よりバス約35分  
直通バス(学生専用)約20分



### 神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線  
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線  
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



# 教育の過渡期だからこそ

教職課程協議会委員長 文学部 教授 高橋 龍夫

専修大学の資格課程では、毎年、教職課程の履修者から数多くの教員採用試験合格者を輩出しています。2020年4月から専修大学の卒業生として教壇に立つ皆さん、まずはおめでとうございます。また、惜しくも2次試験を通らなかったとしても、講師として活躍しながら次年度の採用に向けてチャレンジする道は開けています。近年は私立の中学・高校に勤務する人も少なくありません。様々な職業選択の道があり、かつ就職活動が比較的順調な時期にある中で、教師を目指すのは勇気のいることかも知れません。実際、近年は教育改革が進んでおり、新学習指導要領の段階的实施はもとより、大学入学におけるセンター試験が共通テストへと大きく様変わりする状況もあって、児童・生徒を取りまく教育環境は少しずつ変化してきています。その一方で、教育現場では、家庭と子どもたちの多様化に対する柔軟な対応も必要とされています。同時に、教師の労働環境などの特殊性が問題視され、漸く改善の方向へと舵が向けられてきています。こうした昨今の教育事情に社会的関心度がこれまでになく高まっており、新聞や雑誌などで教育に関する記事や特集をしばしば目にするようになりました。2019年度の一例にあげると、『現代思想』5月号では「教育は変わるのか」と題して17本もの討議や論考が掲載され、文芸誌『すばる』7月号では「教育が変わる 教育を変える」と題して13本の対談や論考が、同じく『文学界』9月号では「『文学なき国語教育』が危うい」と題して9本の論考や座談会が掲載されました。（個人的には千葉雅也氏の指摘が興味深かったです。）さらに『世界』9月号でも「国語教育崩壊は回避できるか？」と題した対談記事が掲載され、各社新聞でも作家や評論家のインタビュー・批評などが数多く載せられました。まさに日本の学校教育は大きな過渡期を迎えていることは間違いありません。

こうした時期に教師を目指し実際に教壇に立つことは、皆さん自身にとっても大変重要な意味を帯びてくるでしょう。教育現場では若い皆さんの柔軟な判断力と行動力がこれまで以上に必要とされるからです。新たな教育実践への対応にしばらくは揺れが生じたり、

教師間で意見の相違などが見られ戸惑うこともあるかも知れません。また、部活動も含め勤務内容が段階的に変化したり各種研修の機会が増えるなど、暫定的にはかえって負担が増えることも予想されます。教師という仕事に対する社会の見方も厳しくなりつつあります。ですが、教育に対する新たなビジョンを抱きつつ、自らのアイデアや個性を活かしながら主体的に教育実践に参画できる機会が増すことで、今後10年のスパンで学校現場の変化を見守りつつ、生涯の仕事としての貴重な経験の糧を得られると思います。もちろん、様々な人々と出会い世界の多様なものの見方、考え方に触れて人間教育全体への視野を持ちながら、自身の担当する教科の力を蓄えつつ新たな実践方法を研究し続けることの大切さは言うまでもありません。インターネットで情報が飛び交う現代ですが、いつの時代でも読書に勝る学びはないことも付け加えておきます。

対話を大切にしながら生徒の成長に携われることの人間的な喜びは、何にも変えがたいものです。私自身、短い高校教員の体験を振り返ってみても、日々、生徒の成長とともに自分自身も成長していく発見と驚きが教師という仕事の醍醐味でした。教育の諸条件が変化しても、それが教師という仕事の不変の存在意義だと思います。10代の生徒たちの成長過程に携わることは、今後の日本や世界を少しずつ変えていくことにつながります。教師の仕事はたしかに大変なのですが、激動の時代だからこそ、真剣に教育を考え実践していくことのやり甲斐と素晴らしさをより実感できることでしょう。

こうした思いを抱きつつ、次年度以降も、資格課程を履修する皆さんとともに、将来を見据えながらキャンパスで学び合っていく所存です。



国際芥川龍之介学会。長崎大会（2019, 8）にて

# Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。  
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

## 目次

Artificial Intelligence Technology Is Coming to Town: Revolutionary Impacts on English Learning and Education 文学部 教授 片桐 一彦 Professor, School of Letters KATAGIRI, Kazuhiko	8
---	---

## 教職課程

卒業生から	12
教員採用試験体験記	16
教育実習を終えて	21
介護等の体験を終えて	27
教職公開講座に出席して	28
専修大学教育学会に出席して	29
教職総仕上げ「教職実践演習」	30
教科研修生体験レポート	31
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート	32
専修大学附属高等学校から 「夢」のさきへ 私立専修大学附属高等学校 教諭 澁谷 実月	33

## 司書・司書教諭・学校司書課程

公立図書館の所管と2019年度の「図書館基礎特論」 経営学部 教授 荻原 幸子	36
図書館実習を終えて	38
卒業生から	39

## 学芸員課程

県立美術館の仕事 石川県立美術館 学芸員 奈良 竜一	42
博物館実習を終えて	44

## データ編（令和元（平成31）年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数	48
教育職員免許状取得件数	50
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数	50
教育実習先一覧	51
図書館実習・博物館実習先一覧	54
主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員）	55
資格課程年間行事表	60
教職相談実施結果	61
教員採用試験対策特別講義実施結果	62
教職公開講座開催結果	63
司書課程図書館実習報告会開催結果	64
司書課程就職（進路）懇談会開催結果	64
学校司書課程講演会・受講説明会開催結果	64
学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告	65
資格課程活動報告	65
資格課程教員紹介	66
編集後記	

## ■5つの資格課程

### 教職課程…中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>(令和元(平成31)年度入学者)

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

### 司書課程…「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

### 司書教諭課程…「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

### 学校司書課程…「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小学校・中学校において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

### 学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

# 好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す  
あなたへ

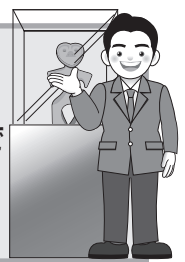
## 教職課程

図書館で働きたいなら



## 司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で  
働きたいなら



## 学芸員課程

### 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイドンス

1～4年次  
教職課程履修登録  
4月上旬

1～4年次  
司書課程  
学校司書課程  
履修登録  
4月上旬

1～4年次  
司書教諭課程  
履修登録  
4月上旬

1～4年次  
学芸員課程  
履修登録  
4月上旬

3・4年次  
介護等の体験  
(中学校教諭免許状取得希望者)  
5月下旬～3月上旬

4年次  
教育実習  
5月～11月

3・4年次  
図書館実習  
(希望者)  
8月～11月

3・4年次  
博物館実習  
(館務実習)  
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)  
教員免許状の交付  
3月

卒業時(希望者)  
司書資格取得証明  
書・学校司書課程  
修了証明書の申請  
および交付

卒業後(事前に申請した者)  
学校図書館  
司書教諭講習修了証書  
の交付

卒業後(希望者)  
学芸員資格取得証明書  
の申請および交付

### 司書・司書教諭・学校司書課程サポート

#### 司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、  
図書館関連の就職や大学院進学に  
ついて懇談をしています。

### 学芸員課程サポート

#### 学芸員課程セミナーを開催

平成30年12月に第1  
回学芸員課程セミナー「博  
物館、学芸員のしごと」を  
開催しました。

## 教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

## 玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

## 教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

## 多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

## 教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

## 教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

# 教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

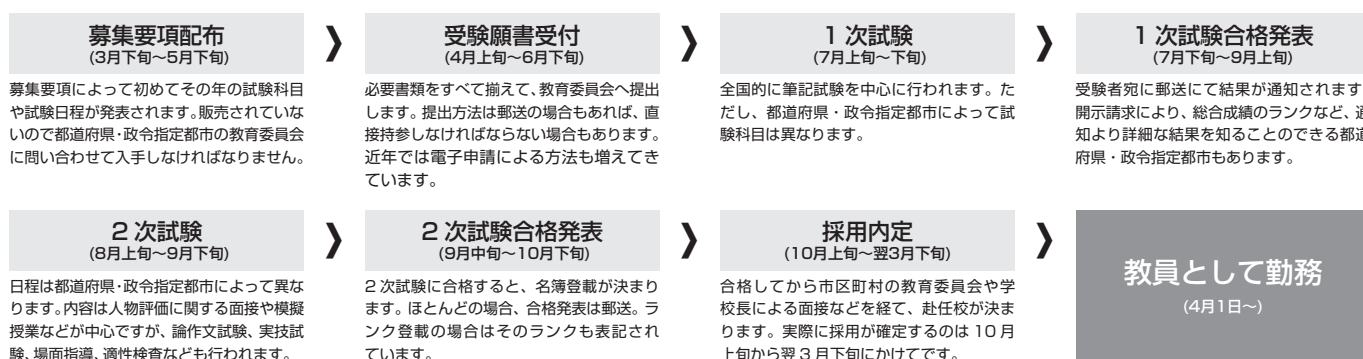
## 教員

## 教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教員及び養護・栄養教諭になるには、各職種・科目ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は科目）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の教科

及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

### [ 公立学校の場合 ] 教員採用試験の出願から採用までの流れ



## 教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の5つの試験があります。

### 【論文試験】

教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重視されています。

### 【筆記試験】

教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの自治体（都道府県及び政令指定都市）が両方の試験を課していますが、片方だけを課すところもあります。

### 【実技試験】

小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えていきます。

### 【面接試験】

個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人間的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1次・2次を通して2～3回面接を行う都道府県（政令指定都市）も見られるようになり、特に模擬授業は約7割の都道府県（政令指定都市）が取り入れています。

### 【適性検査】

教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレペリン精神検査、Y-G 性格検査、ロールシャッハ・テストなどが用いられます。

### [ 採用試験後の流れ ]

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験(検査)」といい、教員として採用する候補として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるで

しょう。最終合格発表（2次試験合格発表）は都道府県（政令指定都市）によっても異なりますが、概ね9月中旬～10月下旬頃に行われます。しかしその頃は、まだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合

格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用されないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後1年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、1年間採用されなかった場合でも次年度の1次試験が免除される都道府県（政令指定都市）も見られます。

### [ 私立学校の場合 ]

## 採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。



# 司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

## 司書

### 【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CDやDVD等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熟意と素養のある人材が求められています。

### 【就職】

#### 1. 公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

#### 2. 国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1次試験は教養試験（多肢選択式）、2次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

#### 3. 国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2次試験が専門試験および各大学での面接です。

#### 4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

## 司書教諭

### 【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成15年度から12学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科および文学部ジャーナリズム学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

### 【就職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくはP6を参照してください。

## 学校司書

### 【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の3つの職務を担っています。学校司書課程では、上記の3つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

### 【就職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

## 学芸員

### 【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会的教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

### 【就職】

#### 1. 公立博物館の場合

学芸員については定期的採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

#### 2. 私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

# Artificial Intelligence Technology Is Coming to Town: Revolutionary Impacts on English Learning and Education

文学部 教授 片桐 一彦 (Professor, School of Letters KATAGIRI, Kazuhiko)

Artificial Intelligence Technology (hereafter, AI) including machinery translation has dramatically made progress in many fields for the past few decades. For example, in the fields of chess, Japanese chess (*shogi*) and *go*, AI has already defeated the top professional players in each field, showing that AI surpasses the best human intelligence in these areas. For medical diagnoses, such as X-rays of the chest, AI can check more people and diagnose lung cancers more accurately and stably compared to medical professionals. Many people use voice controls in smartphones to research (for example, the search engine, “google”) something, and the smartphones understand what people say and respond accordingly. The responses or results are almost perfect in most of the cases even though their utterances are usually not a complete sentence(s) but just phrase(s).

Google has been offering automatic translating system, “Google Translate” (e.g., one can translate Japanese into English language and vice versa) to people all over the world on their website for free, and the Voice Translation Apps offered by the National Institute of Information and Communications Technology (NICT) in Japan and others also have been offering their own ones. People say that the accuracy and quality in translating by “Google Translate” were drastically improved in the year 2016 because Google changed its algorithm that was implemented for its AI. Google translate is not completely accurate yet,

but we could expect it to improve relentlessly and endlessly. This is controversial, but I can personally conjecture that in a few decades, AI should be able to utter or produce better Japanese and English sentences than native speakers of the languages. As an extension of this prediction, I also speculate that, in a few decades, AI will excel humans in the fields of simultaneous interpretation and translation.

The value of being able to listen to, read, speak, and write English, which is a foreign language in Japan, may be predicted to decrease considerably, because I speculate that AI will conduct simultaneous interpretation and translation almost perfectly in terms of quality with least time, efforts, and costs. The growth and advancement of AI and/or ICT (Information and Communications Technology) may raise fundamental questions in English learning and education in Japan such as “Do we still have to learn English (or a foreign language) at school?” To refute such a question, some people probably say, “No matter how well computers have been developed, we need to learn arithmetic without using calculators at elementary school.” English learning/education should be so at the basic level. However, another question continues to be raised: “Should all the senior high students still substantially be required to learn English at school, although they have learned English since the third grade at elementary school and have finished learning the basic level of English?” and so on. In a few decades, it may be possible that there will be very little necessity for all students to learn English at middle level and/or

advanced level after they finish learning the basic level of English because they can utilize AI's simultaneous interpretation and translation system. Therefore, only those students, who want to acquire higher-level proficiency in listening, reading, speaking, and writing English for their careers and life, will continue to learn English, especially at the senior high school (SHS) level. For example, in mathematics, only those students who want to continue to study mathematics at SHS learn "Napier's constant" in the classes of Math III (Optional; Advanced level) in their third year of SHS:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = e \quad (e = 2.71828182845904\dots)$$

This is known extraordinarily well as the base of the natural logarithm. Napier's constant has many precious properties, and one of them is that if you differentiate the exponential function " $e^x$ ," you will obtain " $e^x$ " again, that is,  $\frac{d}{dx} e^x = e^x$ . It is vitally important to learn Napier's constant because this is often utilized in so many areas of mathematics, statistics, and natural sciences. Due to the limited space, only one example utilizing Napier's constant is described below as the general formula for the probability density function of the normal distribution:

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}\sigma} e^{\left\{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}\right\}}$$

( $\mu$  = mean,  $\sigma$  = standard deviation)

The new Course of Study designated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT) for mathematics at SHSs,

which will start off administering in the academic year 2022, includes the normal distribution in Math B (Optional; Intermediate level) in the second-year of SHS. Not all students but only those students who wish to continue to study mathematics at SHS learn the details of Napier's constant in the classes of Math III. It may be possible that English learning/education will follow a similar system/concept as mathematic learning/education at SHS when AI simultaneous interpretation and translation systems can function almost accurately. Therefore, only those students who desire to continue to study higher-level English will get to learn it at SHS.

This may be an inconvenient truth for the English teachers in Japan. Many Japanese teachers of English including professors and researchers of English education are likely to avoid speculating the future of AI and its impacts on English learning and education. What do you think about the future of AI and its impact on English learning and education? Please imagine and think about its impacts in the future.

The title of this essay is inspired by the famous Christmas song, "Santa Claus Is Coming to Town" and it is partially revised ("Santa Claus" is replaced as "AI"). I hope to enjoy the results provided by the future development of AI and ICT and therefore, this parody, "♪You better watch out. You better not cry. You better not pout. I'm telling you why. AI is coming to town.♪"



「私立専修大学」と改称した頃

# 教職課程



10号館（生田キャンパス）

### 【自分らしさを、自分の魅力を、子供たちに】

これは、教師という職務を全うするための指針ではありません。私自身が、自分と向き合うための、自分の人生をより輝かしいものにするための一つのポリシーです。教師というよりも、一人の魅力的な人間として、次世代を担う子供たちに還元するために、その一つの選択肢として教師になりました。

皆さんは、どのような想いを持って、教師を志望していますか？——

### 【教育の本質とは？】

皆さんは、どのような教育が子供たちへの最高のプレゼントだと思いますか？

テストで良い点数を取らせることでしょうか？子供たちに寄り添い、親身な指導をすることでしょうか？子供たちのために、自分の時間を割いてまで業務に専念することでしょうか？

確かに良い点数を取らせれば、通知表も高評価で、自ずと高学歴になるでしょう。親身な指導は、子供たちも安心し、保護者からも満足されるでしょう。自分の時間を割き、残業すれば、周囲の教員から絶大な評価をいただけるでしょう。

でも、本当にこれらの教育が子供たちへの最高のプレゼントになっているのでしょうか？

良い点数を取らせたり、良い大学に送り出したりすることではなく、子供たちが「学ぶ」ことの面白さ・楽しさ・大切さを肌で体感でき、教室以外の空間でも自ら学ぼうとするきっかけを形作る授業の方が必要ではないでしょうか。子供たちを先導し、大人の都合の良い答えを刷り込ませ、大人が決めた道に進ませる指導よりも、一度きりの人生を悔いが残らないように何事もチャレンジさせてあげることが大切なのではないでしょうか。校務分掌という事務的作業や部活動に逃げるよりも、自分の時間を大切にし、自分の大切な人を大切にし、自分の人生をアップデートす



ICTを用いたクリエイティブ思考を養う学習

るために常にチャレンジする姿を子供たちに見せるべきではないでしょうか。

### 【子供たちがワクワクしていない】

私は2018年に新卒で教員になりました。今後の教育活動にとってもワクワクしていました。しかし、いざ現場の最前線で勤めると、私よりも子供たちの方がワクワクしていませんでした。「先生、良い点数取りたいから板書と解説の授業だけしてください」「ある程度良い大学に行ければ良いので」このようなことばが私に降りかかってきました。

今の子供たちのなりたい職業ランキング第1位は「正社員」だそうです。これほど子供たちはワクワクしていないのだと愕然としました。しかし、これは子供たちが原因ではなく、大人が原因だと考えています。

大人（教師）がワクワクする人生を送り、その姿を子供たちに見せ、夢や希望を与えるのが教育の一つの最大の本質的要素ではないでしょうか。何かにチャレンジすることでも良いですし、大切な人を見つけることでも良いと思います。私は、自分の人生にワクワクしているのが常に自分に問いかけるように心がけています。

### 【「子供たちのために」や「聖職だから」とか過度の責任感を背負って志望するのをやめませんか？】

皆さんは、教師になることをためらっていませんか？

次世代の人間を育成するこの職業の過度な責任感は、場合によっては教師を自滅させる一つの大きな要因になりかねません。私は「自分らしさ」を消し、誰かが形作った虚像に自分を当てはめる必要は全くないと考えています。むしろ「自分」を磨き、「自分らしさ」を素直に表現し、「自分の人生」を輝かしいものにする教師こそが最高の教師であり、最高の人間ではないでしょうか。私は、自分と、自分の人生を大切に生きています。そうすれば、自然と子供たちに還元できるのではないかと信じているからです。

子供たちは「THE 教師」に惹かれませんが、「自分らしさが光る教師（人間）」に惹かれるはずですよ。

既存の「教師」という職業に縛られないでください。これからの教師の在り方を、一緒にアップデートしていきませんか？

教師としても、一人の人間としても、魅力的な方がこの業界に増えていくことを、心から楽しみにしております。

### ○はじめに

皆さん、こんにちは。私は現在、堀越高等学校で外国語（英語科）教諭として勤務しています。専修大学を卒業してから非常勤講師、常勤講師としてそれぞれ1年、専任教諭として2年が経ち、今年で5年目を迎えました。今回は、「生徒指導」、「部活動指導」の2点についてお伝えしたいと思います。教員としての使命や役割など少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。



移動教室でのクラス写真（前列中央が筆者）

### ○生徒指導

生徒と共に学校での時間を過ごすことで最も感じることは「生徒は常に教員を見ている」ということです。1年目のフレッシュな教員であっても、ベテランの教員であっても生徒からすれば皆が同じ教員です。だからこそ自分がプロであるという事を常に意識しなくてはなりません。日々の学校生活の中で生徒はもちろん、教員でさえ失敗をすることはあります。その失敗を繰り返さないためにはどのような改善が必要なのか、自分自身の言動を振り返り、改善させることが生徒の成長を促す一番の近道だと考えます。生徒指導に明確な答えはありません。自分自身のスタイルを確立することは大切ですが、生徒指導はケースバイケースです。まずは「ブレのない、統一された指導」が最も重要だと考えます。「あの日は良いと言ったのに…」、「なぜ他の生徒はいいの？」こんなことを生徒から言われれば信用を失う事にも繋がりがかねません。一貫した指導の中で生徒の個性を見極め、たとえどんなに強く叱ったとしても必ず最後は寄り添って味方になる。そんなことを常に念頭に置きながら生徒指導を行っています。

### ○部活動指導

現在に至るまで、経験のあるサッカー同好会の顧問を担当しています。日々の活動の中でサッカーの技術を磨くことはもちろん、「報告・連絡・相談」を中心とした、将来社会に出たときに必要とされるスキルを身に付けさせることに力を入れながら指導をしています。遅刻や欠席をするのであれば理由を添えて連絡を1本入れる。一見簡単そうに聞こえますが生徒にとっては難しい場合もあります。生徒とのコミュニケーションを大切にしながら日々試行錯誤を繰り返し、生徒とぶつかり合いながらチーム力の向上、個人の成長に繋げています。



同好会活動中の筆者（スタンド正面）

### ○おわりに

「人」が相手であるという点から苦勞することの方が多き職業ですが、1日の中で数えきれない程の「やりがい」を感じることできる職業でもあります。教師にとっては長い教員生活の中での一瞬の生徒との関わりかもしれないかもしれませんが、その生徒にとってはたった3年間しかない高校生活の一瞬の連続です。だからこそ、自身の言動には細心の注意を払わなければなりません。普段生徒と接していくなかで初心を忘れることなく、今後の教員生活を全うしようと思います。

教育実習や大学の授業を通して、期待以上に不安の方が大きい人が多いと思います。ですが自分の想い描く教師像を崩すことなく、今現在できることに精一杯取り組んでください。これからの皆さんのご健闘を祈っています。ありがとうございました。

## 卒業生から（公民）

山梨県立甲府昭和高等学校 教諭 戸泉 宗太（平成28年度文学部人文・ジャーナリズム学科卒業）

山梨県立甲府昭和高等学校公民科教諭の戸泉宗太（といずみしゅうた）と申します。令和元年現在、私は教員3年目で、3年生の担任を受け持っています。限られたスペースですが、今までの経験から感じたこと・思ったことをお伝えさせていただきます。

### 教員にできることはまだあるかい

教員の仕事は何ですか？と問われたら私は「何でも屋」と答えます。本当に何でもやります。授業はもちろん、課外が組まれれば課外の準備と実施、模擬試験が実施されればお金の集金、服装検査の実施と指導、出欠席の管理、三者懇談、出願の指導（これも生徒が希望する進学先によって書式が全く異なってくるので、その都度対応します。）、清掃監督、部活動指導などなど… 冷静に振り返ってみると、本当に仕事は多岐にわたっているなと思います。でも、「目の前の生徒が1ミリでも大きく成長するためには…」というスタンスで仕事をしているので仕事が多岐に渡っているのは必然なのかなと思います。某大ヒット映画の主題歌ではないですが(笑)、「僕にできることはまだあるかい」とひたすら問うて、正解はわからないけどトライして上手くいけばよし、上手くいかなかったら次に繋げる… そんな毎日です。

### 結果が出ているのかは分からないけど…

ただ、「上手くいっている」とか「結果が出ている」と実感できることはなかなかありません。そうですね。最近のエピソードで言うと、6月後半に学園祭がありました。本校は3学年を縦割りのグループにして体育部門・合唱部門・クラス企画部門などのさまざまな部門にチャレンジして順位を競うのですが、今年はなかなか結果が出ませんでした。特に合唱。私は中学・高校と吹奏楽部だったので、「これは貢献できる！」と張り切って指導して「絶対1番！」と生徒にも言っていたのですが、蓋を開けてみたら結果は6位… 何とも中途半端な結果になってしまいました。ただ、生徒からは「今までで一番中身が濃い学園祭だった！」という声をたくさんいただいたのですが、私自身はモヤモヤがかなり残る学園祭でした。学園祭終了後、

クラスのリーダーの子から「結果は残念だったけど、やり切ってきたと納得ができる学園祭になった。先生がこんなに動いてくれなかったらこんな結果にはなってなかったと思う。」というメッセージをいただきました。結果はどうであれ、「教員が動く」ことは生徒に何かしらの影響を与えるということを強く実感した次第です。「先生、先生！」なんて言われる職業ですが、語弊を恐れずに言えば教員も所詮ただのヒトだと思うのです。常に正しいことができるわけではない。だから、とにかくできることをやって・動いて、それを生徒が見て何か感じて考えて少しでも成長の「糧」にしてもらえばと最近はずっと思っています。

### 教員も教えるけど、生徒も教えてくれる

「仕事は多岐にわたる」とお話ししましたが、実際教員の仕事の一番のウェイトを占める仕事が授業です。教員は生徒に授業を通して様々なことを教えますが、逆に様々な場面で生徒から教えられることもあります。「過去には戻れないんだから、次に繋がる行動をするしかないんですよ。」「先生は傷つかないかもしれないけど、私は傷つくんです。」などなど… 生徒が教えてくれることはとても貴重で尊いです。そんな貴重な「学び」を得ることができることも、教員という仕事の魅力かもしれません。

### ワンノブゼムだけど、オンリーワン

教師という職に就いている人は沢山います。元も子もないことを言ってしまうと、「ワンノブゼム」なわけですが、でも、生徒にとってその先生は「オンリーワン」です。だから、「私のクラスになったからには、私の授業を受けているからには、絶対いい思いをさせてやる」と必死にできることをやり続けることが何よりも大切なのかなと私は思います。みなさん、未来で待っている生徒のために今できることがあれば何でもやってみてください。その経験は必ず将来に生きてきます。私も、今・そして将来のために今できることをきちんと取り組もうと思う今日この頃です。



## （1）はじめに

私は、茨城県立土浦第三高等学校に商業科教諭として赴任し2年目を迎えました。まだまだ、わからないことや慣れないことが多々あり苦労する日々が続いていますが、毎日生徒と真正面から向き合うことで多くのことを学んでいます。そして、私はこれまで様々な事に精一杯取り組んできましたが、教員になってから今の生活が一番有意義な時間を送っている自信があります。今回は、教職課程を履修している学生の皆さんにメッセージを書かせて頂くことになり、私自身の日々の活動を振り返り2年間で学んだことや感じたことをお伝えしたいと思います。

## （2）教科指導について

教員の仕事で、一番を考えなければいけないのは教科指導の大切さです。専門教科である商業をしっかり教え、生徒がその魅力を理解し興味を持って自ら学べるような授業展開を目指しています。授業では、1クラス40人で授業を行っています。その中には理解度に個人差が生じ、授業の進め方には毎時間気を配りながら進める必要があります。新採の1年目は、理解度の遅い生徒に合わせたペース配分で授業を進めたため、どうしても理解の早い生徒には手持ち無沙汰になってしまいました。その反省を踏まえて、2年目の今年は教科指導に工夫と改善を加え、様々な取り組みをしています。授業では、教科書や問題集だけではなく理解度のアップと自宅学習の手助けになるように自作の学習ノートを作成し、そこに書き込みをさせるようにしています。様々な工夫を凝らし教材研究に時間を掛けることで、生徒全員が授業に魅力を感じながら学習することができます。また、教職経験2年目の私と40年目のベテラン教員も同じ単位数で授業をしています。どれだけの経験差があっても、生徒からすると同じ商業科の先生であり、生徒への指導が上手くできないという理由にはなりません。そのため、私は常に教材研究に手を抜かず経験差を自分自身の努力で埋められるように日々教材研究に取り組み、一人でも多



学習ノート

くの生徒が授業や教科の魅力に興味・関心を持ってもらえるように頑張っています。

## （3）校務分掌について

皆さんは、「教員の仕事は…？」と聞かれて思いつくのは何でしょうか。生徒と直接かわる教科指導や部活動を思い浮かべる人が多いと思います。実際に、私も大学で教員を目指していた頃は、生徒と直接かわる仕事メインになると考えていました。しかし、初めて赴任校に訪れた際、教頭先生からこんなことを言われました。「教員の仕事は、5割が教科指導で残りがそれ以外の仕事だ。」この言葉にとっても戸惑いました。しかし、高校の現場で生活していくうちにその意味が徐々にわかるようになりました。それが、授業や部活動の指導以外の校務分掌などにおける仕事です。高校では、学校で行われることのすべてに教員が関係してきます。授業はもちろんですが生活指導や進路指導、入学式や卒業式の準備、文化祭や体育祭などの学校行事など様々な仕事があります。生徒からは見えない教員の仕事が非常に多くあり、それを「校務分掌」で分担し対応しています。

私は、その中でも特別活動部という学校行事を取り仕切る仕事をやっています。生徒会を中心に文化祭などの学校行事を運営し、高校生活の中で生徒達が思い出に残る行事作りに、周りの先生方と連携をとりながら取り組んでいます。そして、できる限り生徒達の自主性を尊重しながら行事を行うことで、日々成長する姿を見ることが出来ます。その成長を見ることが私のやり甲斐にも繋がっています。

## （4）終わりに

ここまで、2つの観点について伝えてきましたが、一番大切なのは「自分がどんな教員になりたいのか」という信念を持ち生活することだと思います。理想と現実のギャップに戸惑い挫けそうになることもありますが、その信念がどんな時でも自分自身の支えになり成長に繋がると考えています。最近、ニュース等で教職について厳しい評価や勤務状況等様々な報道がされていますが、私はやりがいと誇りを持てる素晴らしい仕事だと確信しています。

是非、教職課程を履修している学生の皆さんには「生徒から信頼され慕われる教員」を目指して、今やるべき事をしっかりと取り組むベストを尽くしてほしいと願っています。

## ○はじめに

この度、2020年度静岡県教員採用試験に合格することができ、幼いころからの夢である中学校国語科の教員という道に進むことになりました。これから採用試験を受験しようと考えているみなさんへ、少しでもお役に立てることがあればと思い、体験記を書かせていただきます。

## ○一次試験

一次試験では、一般・教職教養と専門教養の筆記試験、そして個人面接がありました。



採用試験対策に使用していたノート

まず筆記試験の対策としては、市販されている参考書や問題集を何度も繰り返し勉強しました。私は、昔から暗記することが得意ではなかったので、実践的な問題を解くことによって知識を定着させるよう心掛けました。また、私は文字を書くことが好きなので、覚えにくい部分はノートに書きだしたりしていました。自分に合った参考書、問題集を見つけ、少しでもストレスを少なく、自分に合った勉強方法を見つけ実践していくことが大切だと思います。

個人面接の対策としては、自分が受験する自治体だけでなく、全国の採用試験の個人面接ではどのようなことが聞かれやすいのかなどの情報を集め、そのすべての項目をノートに書きだし、回答を用意しました。回答を考えるうえで気を付けるべきことは、自分が大切にしたい一つの大きな芯を通すことです。私自身の芯は、「言葉を大切にできる生徒を育てたい」という強い気持ちです。このことを実現するために、私はどのような教員になるべきか。そしてどのような人であるべきなのか考えました。試験本番では、想定していなかったことを問われることも多々ありましたが、自分の大切にしていることは何なのかを思い出すことにより、質問に対し素直に回答することができたのだと思います。

## ○二次試験

二次試験の対策の一つとしては、大学が開

講してくれていた二次試験対策特別講座を受講していました。私が受験した自治体の二次試験の内容である、集団討論や個人面接の対策もしていただきとてもありがたかったです。先生方が試験官となり実践的な練習ができ、それぞれの受講者に対し細かく丁寧に指導してくださいました。これらのことは二次試験当日の自信にもつながったと思います。また、自分以外の受講者の個人面接の練習を近くで見学できたので、面接官から見て自分たちはどのような見え方をしているのかなどがわかり、多角的に面接について考えることができました。

もう一つの対策は、友人たちとの実践的な練習です。集団討論の練習を何度もすることにより、自分がどのポジションで討論に参加するのが得意なのか把握することができました。また、多くの人の意見を聞くことで自分自身の狭まった視野を広げることもできました。個人面接の練習では、自分の回答の弱い部分を見つけてもらい、ためになることばかりでした。

## ○おわりに

私が採用試験に合格することができたのは、周りの人たちの支えがあったからだと感じています。ほとんど毎日大学に来て一緒に試験勉強をしてくれた友人や、集団討論の練習を一緒にしようと声をかけてくれたみんな、丁寧に指導して下さった先生方や、いつも私の話し相手になってくれ、励まし続けてくれた家族に心から感謝しています。周りの人たちへの感謝を忘れず、正直に、そして自信をもって試験に臨んでください。これらがとても大切であると実感しています。

みなさんの夢が叶いますように心から願っています。そして、私は春から「教員」となります。辛いこともあると思いますが、楽しく過ごしていきたいと思っています。



試験勉強に使用した参考書

## はじめに

この度、令和元年度東京都公立学校教員採用候補者選考に合格し、4月から教員という立場で働かせていただくことになりました。振り返ってみると、長いようで短いあという間に試験が来て、終わってしまったような印象を受けます。今回はこのような機会をいただきましたので、拙い文章ではありますが、私なりにお伝えしていこうと思います。

## 1次試験

私が教員採用試験の対策をし始めたのは3年生の12月ごろからでした。東京都の1次試験は教職教養、専門教養、小論文です。他県の問題と比べても東京都の問題は独特で、一般教養がない分、各項目の難易度が高くなっています。教職教養に関しては、外部の予備校の授業と、バンビの会（嶺井先生が発足した教職の勉強会）で対策を行っていました。教職教養の問題は5択のマーク式で日本国憲法、教育法規、教育原理、教育心理、教育史と問題が分野ごとに分かれています。私の勉強法は、教育法規の分野であれば、まず問題集などで教育法規の分野のみを解き（マーク問題のみ）、そして東京都の過去問で10年分ほど教育法規に関する問題のみを解くというやり方をしていました。なぜこのような勉強法をしていたかということ、10年ほど解くと毎年出る分野や、引っ掛け方など傾向がつかめるからです。この方法でそれぞれの分野を勉強していきました。東京都の問題は先ほども申し上げましたが、マーク式なので正解以外の4つの選択肢は全て何かが違うということになります。そこで、間違えている部分はどこなのかそれぞれ分析しノートに書くようにしていきました。すると、同じような問題が出た時に、正解のものとの他の選択肢は何が違うのかが分かるようになっていきます。専門科目については、同様に過去問で対策を行っていました。また、高校生の時に使っていた参考書を引っ張ってきて勉強したり、実用英語検定の単語を覚えたりと、日々の積み重ねを大切にしていました。小論文に関しては、やはり何回も書いて添削していただくことが大事だと思います。東京都に関しては、お題が決められているためにその内容に沿った論作文でないとなりがちで、点数が下がってしまいます。そのために、小論文の文の組み立てとともに、題材に関して分析を行い、論理的に文を構成できるように練習をしていました。

## 2次試験

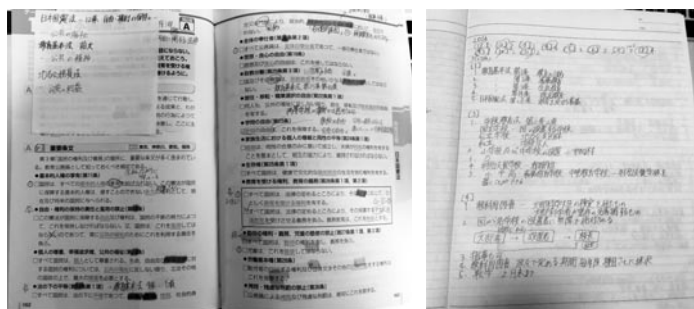
専修大学主催の講座1回と、教職仲間で集まった1回のみでしか対策ができませんでした。そのため、残された時間で私にできることはどのようなことを話すのか、内容をノートに書き起こしてひたすらスラスラ言えるように練習をするのみでした。そのため、とにかく分析をし、ある程度この内容が来たらこれを答えるというものを準備していきました。場面指導に関しては、聞かれる質問が予測できたので、対策をすることができました。私は非常に緊張する方なので、本番も胃がキリキリするほど緊張しました。しかし、ある程度質問に対しての心構えができていたおかげで、何とか答えることができました。東京都はテストの中で、2次面接での比重が大きく、特に2次面接で決まると言っても過言ではありません。そのため、実践の場を増やすとともにどんな質問が来ても動じない心を持つといいと思います。

## 最後に

合格発表の日、私は教育実習中でした。合格発表の際に番号を見つけた時は、本当に信じられず、うれしい気持ちと同時に驚く気持ちの方が大きかったのを今でも覚えています。

今回教員採用試験を受けるにあたり、人の優しさに触れる機会が多くありました。この1年間を振り返ってみて、この採用試験を乗り切ったことは1人では成し得なかったと改めて思います。教員採用試験に対する不安な気持ちに対しても、教職の仲間や、親身にご相談に乗ってくださった先生方がいてくれたから乗り越えていけました。今後もこの感謝の気持ちを忘れずに、教員として、人間として大きく成長していきたいと思っています。

最後になりますが、辛い時期も必ず終わりはあります。どうか皆さんが自信を持って教員採用試験を突破し、皆さんの夢が実現されることを心から願っております。



教員採用試験勉強に使った参考書、ノート

## ・はじめに

今年、私は三度目の挑戦で、神奈川県教員採用試験に合格しました。私が本格的に「教師」になろうと思ったのは、この大学での教科教育研究の講義で、教材研究の楽しさに魅力を感じたからです。専修大学を卒業後、私は都内の私立高校に非常勤講師として教壇に立っています。しかし、在学時には、浪人生のように勉強に励むべきか非常勤や常勤をしながら勉強に励むべきかでとても悩みました。そこで、この体験記では、実際に教壇に立ちながらの採用試験対策について、働きながらの苦労や実際に授業を行った上での失敗などと合わせてお話ししていきたいと思えます。現役生はもちろん、今後働きながら採用試験対策を行おうと考えている方へ少しでもお役に立てれば幸いです。

## ・一次試験対策

まず私は、対策を行うにあたって目標点を設定しました。私が受験した高校日本史は、常に七割の正答率が合格の最低点でした。そこで、教職・一般教養と専門科目でそれぞれ七割の正答を目指し、対策を行いました。私は、教職教養の得点が常に低かったため、教職教養を重点的に行いました。その方法は、まず在学時から所属しているバンビの会への参加です。在学生と切磋琢磨しながら対策を重ねました。次に、参考書や問題集を繰り返し解くことです。中でも教育原理と教育心理が苦手だったため、この二つを何度もやりました。専門科目は、日本史を伸ばすことにしました。その時に決めた目標は満点を取ることでした。また、最初の勤務校では公民も担当していたため、公民も取りこぼさないよう勉強しました。そのおかげで、一次試験では目標の七割を達成し、合格を掴み取ることができました。

## ・二次試験対策

私が二次試験を受けるにあたって、重点的に対策したのは、模擬授業です。もちろん、実際に現場に立っているからということも重視しましたが、神奈川県では、模擬授業から二次試験は始まり、集団討議、個人面接と進みます。そのため、最初の模擬授業での「つかみ」がとても重要になります。私は、二学期に行う単元で模擬授業に臨みました。限られた時間の中で、目標を明確に示さなければならぬため、この練習に多くの時間を割き

ました。模擬授業は、実際に生徒へ授業する上での練習にもなるため、勤務先の先生方に見てもらいました。次に重視したのは、面接です。人と話したりすることは慣れていましたが、一番苦労したのは、話す内容をシンプルにすることでした。質問されたものを長すぎず、短すぎずの内容で話すことの大変さをととても感じました。今となれば、授業での説明の仕方などに生かせるようになった経験と思っています。これらの対策の甲斐もあり、二次試験も合格することができました。

## ・おわりに

私がこの体験記で伝えたかったことは、自分自身の現状と向き合うこと、合格に必要な目標を設定することの二つです。私は卒業後、非常勤講師として働いてますが、今のように現状に向き合っておらず、目標を設定もしていませんでした。新卒で入った学校では、案の定授業は崩壊してしまいました。二年目にも同じような現象が起こり、一緒に担当している専任の先生から指導を受けることもありました。この時、大きなツケとなって自分に返ってきていると感じるようになりました。それは、採用試験の勉強でも同じだったかなと反省しました。特に、バンビの会でご指導いただいた嶺井先生や福山先生をはじめ、専修大学の教職課程に関わる先生方などには、たくさんの経験と励ましをいただきながら、結果を残せなかったことを本当に情けなく思いました。私は、今回の採用試験を経て、自分の努力不足と向き合い、授業力向上により一層励むようになりました。私は、これまで関わってきた職場や母校の関係者の方々などと今でも連絡を取り合っています。今では、周りの先生方ともコミュニケーションを取るようになりました。このような経験ができるのも、「教師」という職業のやりがいです。これから受験される皆さん、いろんな失敗や経験を重ねて、「教師」という夢を掴み取れるよう頑張ってください。きっと、素敵な出会いが皆さんを待っています。



勤務校で行う授業の準備

## 1. はじめに

私は小さいころから人に何かを教えることが好きで、教師という職業に憧れを抱いていました。その憧れが大学生になった時には自分が就きたい職業に変わり、本気で目指そうと決めました。猛勉強の末、私は今年度埼玉県教員採用試験の高校・商業に合格し、4月から教壇に立つことが決まりました。私の経験がこれから教員採用試験を受験する方へ、少しでも参考になればと思いこの体験記を書かせていただきます。

## 2. 一次試験

教師になりたいと決めたものの何から勉強していいのかわからず、3年生の5月から東京アカデミーの学内講座を受講しました。講座では教職教養・一般教養の出題されやすい部分を中心に講義をしてくださるため、どの辺の範囲から手を付けたらよいか明確にわかります。講座の活用方法は人それぞれだと思いますが、私は講座で習った内容をその日のうちに過去問で解くやり方をおすすめします。そうすることで学習内容の定着が早くなり、講座を有効活用できると思います。また、過去問を解いていくなかで同じような問題が何回も出てきた場合は重要範囲であるため、チェックをつけておくと良いでしょう。



専門教養は受ける教科によって人それぞれであるため、講座での対策ができませんでした。インターネットで勉強法を検索したところ、過去問を多く解き、出題傾向をつかむことが大事であると、どのサイトにも書いてありました。しかし私が受験した教科である商業はマイナーな科目であるため、書店でも過去問などは販売していませんでした。そこでエクステンションセンターの方に相談したところ、過去問を取り寄せていただけることになりました。一週間足らずで届き、過去問を解きながら出題された範囲のメモを取り、5年分の出題傾向の集計を取りました。そうしたことによって出題傾向をつかみ、より効率

的に勉強に取り組むことができました。また、専門教養は高校生レベルの内容から出題されることも多いため、高校時代の教科書は必須の参考書であると思います。私は持っていない教科書もあったので、高校時代にお世話になった先生に連絡をし、学校で余っている教科書をいただきました。本気で教師を目指している熱意を伝えれば、必ず協力してもらえらると思います。

## 3. 二次試験

私が受験した埼玉県では二次試験で、個人面接・集団面接・集団討論・論作文が実施されます。私が二次試験の対策を本格的に始めたのは一次試験が終わった直後です。

二次試験対策にあたって最初に始めたことは、面接ノート作りです。過去問から頻出の質問事項を調べ、自分なりの回答を作ります。勉強をしていくうちにより良い回答が思いつくので、スペースを十分使えるように一つの質問に対して見開き1ページを使いました。面接ノートがある程度完成したら、そこからは面接官役と受験生役に分かれて、友人と模擬面接を多く行いました。両方の立場に立つことによって新たな発見もでき、面接で伝えたいこともより明確になりました。

集団討論・論作文については練習あるのみです。集団討論は人数が多くないとできないので、なるべく友人との予定を合わせ、集まることのできる日は必ず練習しました。今から一緒に教師を目指す友人を多く作っておくと良いかもしれません。論作文は友人と1日1本をノルマに決め、12日間書きました。書いた論作文は写真を撮って友人に送り、互いに指摘をして論作文の質を高めていきました。

## 4. おわりに

合格発表の日、自分の受験番号を見たときに今まで辛かった勉強漬けの日々が一瞬で良い思い出に変わりました。私が教員採用試験に合格することができたのは、夢をずっと応援してくれた家族、切磋琢磨し一緒に教師を目指した仲間、教職の知識の基礎を築いてくださった先生方の協力があったからだ実感し、とても感謝しています。最後になりましたが、教師を目指しているみなさんの夢が叶うことを心から願っています。

## はじめに

私は令和元年実施、佼成学園女子中学校・高等学校の教員採用試験に合格し、情報科の専任教諭として、4月から教壇に立つことが決まりました。

本体験記では、採用試験受験にあたり、縁あってご相談することのできた私立高校の先生方からのアドバイスをもとに行った、各選考ごとの対策について簡単にまとめさせていただきました。私の経験が少しでも、教師を目指す後輩たちの力になることができれば幸いです。

## 一次選考 ～書類試験～

特に時間をかけて考えたのは志望動機です。記入欄は広くなかったため、まずは、ボランティア先での経験やその時に感じたこと、教育に対する自分の考え、これらを受験校の特色と結び付けて志望動機を作成し、その後、ある程度の文字の大きさが保てる文字数になるように文章を調整しました。教育実習の経験を取り上げなかったのは、私が教師を目指すきっかけとして、ボランティア先での経験が最も大きかったためです。

## 二次選考 ～筆記試験～

筆記試験は、教職教養と専門教養、小論文の三つでした。教職教養は、市販の参考書と東京都教員採用試験の過去問をもとに、頻出度の高い正誤問題や、最近メディアで取り上げられた教育の話題と関連しそうな問題を中心に勉強しました。専門教養は、「社会と情報」の教科書を中心に勉強しました。私立高校という事もあり出題傾向がわからなかったため、基礎的なことにフォーカスして理解を深めました。小論文は、情報社会の特徴を押さえたうえでICTが教育現場にどんな影響を与えているか、またその事例や自分の考えを説明できるように準備しました。

## 三次選考 ～プレゼンテーション～

私は、「アクティブラーニングの指導について」と題して、プログラミング教育におけるアクティブラーニングを組み込んだ授業デザイン案と単元指導計画についてのプレゼン準備を行いました。まず、プログラミング教育において、主体的で対話的な深い学びとはどういったものかについて考え、それを基に単元指導計画とアクティブラーニングを組み込んだ1コマ分の指導案を作成しました。発表スライドは要点をまとめ、シンプルなデザインを意識して作成し、資料やスライドを見ずに話ができるように練習を積み重ねました。

## 最終選考 ～面接～

面接対策としては二つのことを行いました。一つ目は学校研究です。HPとパンフレットを中心に、特色や建学の精神だけでなく、学校長のコラムまで目を通し、学校としての取り組みに対する理解を深めました。二つ目は自己分析です。まずは過去の資料や教育実習日誌をもとにボランティア先や教育実習での経験を振り返りました。そして、その経験で得られたこと、考えたことを紙にまとめ、それらが今の自分にどう活かしているか、今後の教員生活にどう活かしていきたいかについて考えをまとめ、説明できるように頭を整理しました。

## 最後に

まずは、この場を借りてお世話になった方々への感謝を述べたいと思います。私がこうして合格することができたのは、授業見学やボランティアとして実際の教育現場に携わる機会をくださった高校と大学の先生方、模擬授業等を通して共に切磋琢磨した仲間たち、そして一番長く私を支えて続けてくれた家族の存在があったからこそだと思います。この体験記を書いていく中で、真剣に取り組んできたことの全てが私の糧になっているということ、そして、これまで当たり前のように接してきた人たちの存在こそが、私にとって大きな支えになっていたということが分かりました。これから、少しずつでもこのご恩を返すとともに、それぞれの方に改めて感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、教員を目指す皆さん、これから先何度も苦しい思いをするかもしれませんが、1人で苦しむのではなく、身近にいる大切な人や同じ志を持つ仲間と手を取り合い、立ち向かってみてください。その経験が必ず、皆さんを助けてくれる時が来るはずですよ。これを読んでくださった皆さんと、教師としてお会いできる日が来ることを心から楽しみにしています。がんばってください！



教育実習の仲間（前列左が筆者）

# 教育実習を終えて（国語）

神奈川県立湘南台高等学校 文学部日本文学文化学科4年 及川 菜美

## はじめに

私は母校である神奈川県立湘南台高等学校にて、5月27日から6月14日の3週間、教育実習を行わせていただきました。HRの担当をさせていただいたのは2年4組で、授業は4組に加えて2年1組と2年6組を担当しました。題材は、現代文が山月記、古文が初冠で、合計48時間授業をさせていただきました。ここでは、生徒との関わり方や教科の指導において難しいと感じた点や、それをどう乗り越えたかをお話します。

## 生徒との関わり方について

まず私が難しいと感じた点は生徒との関わり方や距離の縮め方です。私が担当した高校2年生は、1年生のように元気な学年でもなく、3年生のように先生と上手くコミュニケーションがとれるような学年ではなかったため、最初は生徒から話しかけてくることは無かったし、話しかけてもすぐに会話が終わってしまうという状況でした。そこで私は、生徒という時間を少しでも増やすことを心掛けました。私の実習校は実習期間中に体育祭があり、生徒は毎日それに向けてダンスや競技の練習をしていたため、昼休みや放課後はなるべく毎日練習を見に行き、少しでも話せる機会を増やすようにしました。さらに、一番話すことができるのは、やはり授業だと感じたため、グループワークをしている時や問題を解いている間のわずかな時間も無駄にしないようコミュニケーションをとるようにしました。その結果、授業後や廊下ですれ違った時に生徒の方から話しかけてくれるようになったり、悩みを相談してくれる生徒までいました。そして、なにより私がうれしかったことが、研究授業です。私が研究授業を行った2年6組は、授業中に発言する生徒が少ないクラスでした。しかし、研究授業の日は生徒が私に協力をしてくれて、とても積極的に授業に参加してくれました。そのおかげで授業が円滑に進み、最後に一番良い授業をすることができました。自分の時間を犠牲にしても生徒との時間を増やしたことがこの結果につながったと思うので、皆さんも焦らず地道に頑張っていたきたいと思います。

## 教科指導について

私が教育実習中に一番悔しかったのが、初めてやった古典の授業です。私は文法や本文訳、板書の計画など事前にしっかりと準備をしたはずでした。が、実際に授業を行うと、伝えたいことがありすぎて、ただ知識を生徒に伝える授業になってしまい、生徒も聞いているのが辛い様子でした。授業が終わってから教科担当の先生と反省会をした時、先生から「1回1回の授業で何を伝えたいのかということ意識して、それを軸に授業を組み立てていくといい」ということと、「もっと遊び心をもって授業していいよ」ということを言ってもらいました。次の授業からは、授業にゲームを取り入れたり、写真を用意したりと工夫をしました。すると、生徒の様子もがらっと変わり、授業をしっかり聞いてくれたり、楽しそうに参加してくれて、とても嬉しかったのを覚えています。準備をすればするほど、生徒は期待に応えると思うので、忙しいとは思いますが授業準備を怠らないようにすることが大切だと思います。ゲームなどを取り入れた授業は授業が盛り上がる反面、遊びで終わってしまうのではないかという意見もあったため、教科担当の先生や他の先生にも相談をして行うのも良いと思います。

## おわりに

実習中の3週間はとても大変で辛いこともありましたが、あっという間に終わってしまいました。やらなければならないことも沢山ありますが、自分がやりたいことを、思う存分挑戦したほうがいいと思いました。そして、教えてくださる先生方への礼儀を大切に、体調に気を付けて頑張っていたと思います。応援しています。



生徒から貰った色紙

## 教育実習を終えて（英語）

私立西武台高等学校 文学部英語英米文学科4年 齊藤 航介

高等学校にて三週間の教育実習を終えてきました。その三週間で、教師という職のやりがいや面白さを感じると同時に、教師という職の責任の重さを感じてきました。この短い期間で、この身をもって体験したことは様々ありますが、自分のしてきた教科指導を中心に報告します。

まずは私が実習に行っていた高校の様子と、どのような状況で実習を進めていたかを簡単に紹介していきます。

実習校は中高一貫校で、全校生徒は全部で1400人近くになる、いわゆるマンモス校です。高校には5コースの学力別にクラスが編成されています。私が担当したクラスは、高校2年生と3年生の中堅クラスでした。担当の教科指導の先生から、3週間で20を超える授業数を任せてもらい、一週間目から授業準備に追われていました。

そのような状況で、あっという間に時間は過ぎていってしまったのですが、人一倍授業をこなせた甲斐があり、教科指導で大切なことを多く学べました。ここではその学んだことを大きく2つに絞って報告していきます。

まず、教壇実習が始まってすぐに感じたことがあります。それは授業の流れ作りの大切さについてです。教壇実習は授業作りをかなり自由にさせていただきました。教科指導の先生の授業を少しだけ踏襲し、あとは自分の考えた授業の展開のやり方で進めてみました。ただ、一般的に言われている、導入、展開、まとめ、この三段階それぞれに必ず入れなければならない要素を肌で感じました。

ここでは、最初の10分程度の導入に関して学んだことを書いていきます。この時間は授業の雰囲気の良い悪いを決める大切な時間になります。この時間に、今日は授業で何をするのか目的の確認、それに加え授業に夢中になってもらうための動機づけ、この2つをしなければなりません。実際に、最初の教壇実習ではそこまで意識ができていなかったために、50分間生徒を授業に惹きつけることができませんでした。しかし、導入の際に盛り上がるアクティビティを盛り込んだり、興味を惹きつける問いかけを生徒に投げかけたりすることによって、授業に向き合ってもらった生徒の姿勢を前のめりにさせることができました。生徒の興味関心を常に教師側に向け

ることは難しいかもしれません。よって授業構成をただ3つに分けるのではなく、3つの構成にそれぞれ目的意識をもち授業を構成することが重要だと感じました。

最後に、私たち教師は生徒に授業を通し何を伝えていく必要があるのか、この教育実習で考えさせられました。文法を教えたり知識を教えることに夢中で、授業は知識を与える場にしかありませんでした。しかしながら、少し落ち着いて自分の授業を客観視できるようになってきたところで、本当にそれが教師が与えるべき授業なのかを疑問視するようになりました。生徒はその授業を通し、その科目が好きになるかもしれないし、嫌いになるかもしれません。大袈裟なことかもしれませんが、その好き嫌いが生徒たちの人生の選択の可能性を狭めたり広げたりします。その可能性を最大限に広げるのが教師の役割であり、教師の授業が担う責任でもあると思います。そこで、知識を与える授業だけではなく、教える科目を好きになってもらう、その科目を勉強してみたいといった動機づけまでできる授業が理想的だと気づきました。たった3週間の教育実習でも、授業の捉え方が変化し目指すべき授業の形態が想像できるようになったことは、大きな財産となりました。

ここまで、授業の展開や授業の本質について教育実習から学んできましたが、生徒を惹きつけるには教師自身が、自分の専科に対して圧倒的な実力を持ち、魅力をしっかりと理解し、自分自身がその科目が好きでなければならぬと感じました。生徒に少しでも自分の科目の魅力に気づいてもらえるように、これからも常に自分の専科に真摯に向き合い、研鑽を積んでいきたいと思います。



3週間ともに過ごした実習生仲間と（筆者中央、左から2番目は高校時代の恩師）



# 教育実習を終えて（地理歴史）

私立東海大学付属静岡翔洋高等学校 文学部歴史学科4年 長田 康寛

## はじめに

私は6月3日から6月22日までの3週間母校である東海大学付属静岡翔洋高等学校で教育実習を行わせていただきました。学級・授業ともに3年生を担当させていただきました。実習の1か月前に事前に打ち合わせを行い、その際には地歴公民の中の日本史Bで平安時代を授業の範囲として行う予定でした。しかし教育実習開始2週間前に、最初担当する予定だった2年生が修学旅行に行く関係で実習日数が不足するとのことで、急遽3年生の世界史Bを担当することとなりました。世界史Bは私が現役時代に実際に学んだわけではなかったためとても緊張しながら教育実習に臨む形となりました。内容としては中国の古代史を扱うこととなり、具体的には殷から後漢までを教えることになりました。

## 教育実習について

教育実習1週目は2週目以降の自分の授業の参考にするために授業見学を行いました。授業見学は担当教諭をはじめ担当教諭以外また世界史以外の科目にも足を運び、多くの授業から吸収していきました。それ以外にも1週目から朝と帰りのHRを担当しました。また卒業生として、進学コースの生徒に当時自分がしていた勉強方法や心構えについての特別授業を行いました。2週目以降は授業を実際に担当し3週目の金曜日に研究授業を行いました。

実習全体を通じて特に私が意識したこととして「教育実習生は実習を受け入れる学校にとっては実は迷惑な存在である」ということです。この言葉は教育実習が始まって最初の実習生ガイダンスにおいて教務主任から言われた一言です。だからこそこの3週間どのような立ち振る舞いで実習を過ごすのかを教育実習生として受け身の姿勢ではなく自分から考えてどんどん行動していくことが大事であると実感しました。この言葉によって、実習はじめに思っていた母校に卒業生が訪れるという感覚が一瞬で教育実習生が実習校に勉強しに来ているという感覚に切り替えることができましたように感じます。

その上でできる限り生徒と長い間コミュニケーションをとるということに重きを置いて

実習を行いました。授業を行うには教材研究といった授業準備ももちろん大事なのですが、授業を進めていく上では生徒とのコミュニケーションがとても重要であると感じたので、まずすぐに生徒一人一人の名前を覚えることから始めクラスの生徒との親交を深める努力を行いました。生徒も「もう先生名前覚えてくれたんだ」と言ってくれてそこから会話を始め、少しずつ生徒との距離を縮めていきました。授業に関して最初は緊張してなかなか思うように授業作りを行うことができませんでしたが、毎回担当教諭と反省点を挙げていきノートにまとめることで、授業を重ねていくうちに成長することができました。また授業風景をスマホで撮影してくださったのですぐに自分の欠点を見直すことができ、3週間の中で急激に成長することができたと思います。

部活動に関しては参加せず、その分多くの先生から放課後お話を伺い授業の相談やアドバイスを聞き教材研究の参考にさせていただきました。実習の1日の予定としては朝8時前に登校し授業を進め（1日約3コマ）、授業が終わったら放課後は教材研究を行い19時ごろに下校するという流れでした。教育実習はとても忙しく大変でしたがやりがいをもって、また楽しく行えたと感じています。



## 最後に

教育実習を通じて教師としての成長だけではなく人として成長することができたように感じます。大学の模擬授業では味わうことのできない緊張感や学校現場の実状を肌で感じることができました。これから教育実習を行う皆さんはきっと緊張や不安で胸がいっぱいになることとは思いますが、常に笑顔とその状況を楽しむということを忘れずに過ごすときっと充実した教育実習を行うことができると思います。皆さんがより良い教育実習を行えるように願っています。頑張ってください。

# 教育実習を終えて（商業）

千葉県立千葉商業高等学校 商学部会計学科4年 浅岡 里穂

## 1. はじめに

私は6月3日から6月21日までの3週間、母校の千葉県立千葉商業高等学校で教育実習を行ってきました。

ホームルームは情報システム科の2年A組を、授業は商業科の2年C、D、E組と1年A組を受け持ちました。

ここでは私が教育実習を通して感じたこととお話させていただきます。今後実習に行く皆さんの何かのご参考になれば幸いです。

## 2. 教壇実習について

実習を通して授業を行う上で大切だと感じたことが大きく2つあります。

1つ目は教材研究をしっかりと行うことです。私は、教科指導で2年生の財務会計Ⅰと原価計算、1年生の簿記の3教科を担当しました。その分、1つの教科に教材研究できる時間は他の実習生より少なかったです。しかし、限られた時間の中で計画的にそしてわかりやすい授業にするためには何が大切なのかを考え、授業のない時間はすべて教材研究を行い、準備室にある問題集をお借りして授業構成を考えたり自宅に帰ってからプリント作成したり授業がスムーズに進むようにマグネットを作成したりしました。また、空き教室があるときは板書の練習をしたり模擬授業を行ってみたりとできる限りの事を行いました。実際の授業は思い描いたようにスムーズに進まないことの方が多かったですが、それでもこの教材研究が自分の授業のレベルを確実に成長させてくれたと思っています。

2つ目は、生徒とのコミュニケーションです。教壇実習がはじまり最初は授業を行うこ

とで精一杯でしたが徐々に周りを見ることができるようになったとき、指導教諭と私の授業では授業の雰囲気が大きく違うことに気づきました。指導教諭の授業は、生徒が主体的に考えながら時には生徒から笑顔が出るような明るい雰囲気の授業でした。私が授業をするときは、生徒も緊張しているのが指導教諭のときのような明るさがありませんでした。そこから、発言をさせる場面を多くしたり、机間指導の際に自ら生徒に話しかけたりと工夫をすることで少しずつ距離を縮めることができました。

また、コミュニケーションをとるということは授業以外でも大切なことだと思います。私は、ホームルームと授業では違う学科のクラスを持っていたため生徒とコミュニケーションをとるのにはとても悩みました。特に、ホームルームを担当した2年A組は情報システム科という私が卒業した商業科とは異なる学科で、私自身も知らない部分が多くありました。また、このクラスは女子が13人と少なかったために、最初はほとんど生徒と会話をすることができませんでした。しかし、指導教諭からのアドバイスをもとに自己開示を少しずつしたり、学級日誌の返事を書いたりしていくうちに徐々に生徒と話すことができるようになりました。こうした日々の積み重ねが授業の雰囲気や信頼関係につながっていくのだと感じました。

## 3. 終わりに

実習を通して、教育実習というのは、文字通り“教育”実習なのだと思えました。「教育実習」と聞くと授業や教材研究など教科指導の面ばかり考えてしまいます。もちろん教科指導も大切ですが、それだけではなく生徒とのかかわり方や一人一人と向き合うことの大切さを、指導教諭をはじめ多くの先生方また生徒から学びました。これから実習に行く皆さん、大変なこともあります、それ以上に学べることもある貴重な経験だと思います。また、教育実習は他分野の教科からも学べる機会ですので、様々なことにかかわり多くのことを吸収してください。皆さんの教育実習が実りあるものになるよう願っています。頑張ってください。



最終日、2年A組の生徒と一緒に（筆者：後列中央）

# 教育実習を終えて（情報）

神奈川県立伊志田高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 諸星 晴彦

## 1. はじめに

私は、令和元年5月27日から6月14日までの二週間、神奈川県立伊志田高等学校で教育実習を行いました。ホームルームや教壇実習、体育祭など様々な経験をさせていただきました。ここでは、教育実習を通して感じたことを述べたいと思います。

## 2. 教壇実習

教壇実習は実習4日目から始まりました。6クラス担当し、3週間で全21回の教壇実習を行いました。教育実習の事前打ち合わせの際に、指導教諭が普段使用している資料をいただき、それらを参考に授業資料を作成しました。教壇実習が始まるまでは、指導教諭の授業を見学しながら、机間指導を行いました。事前に見学や机間指導を行いながら、クラスの生徒像などを観察しておくことで自分が授業を行うときに授業がやりやすくなると思います。

実際に教壇に立ってみると、大学で模擬授業を行っていた時とは比べものにならないくらい緊張しました。また、生徒からは実習生ではなく先生としてみられるので、とても責任を感じました。初めの頃は、生徒との関わり方が難しく、緊張などもあったせいか堂々と授業を行うことができませんでした。指導教諭からのアドバイスをいただき、机間指導の際に生徒とコミュニケーションをとるようにし、徐々に生徒と打ち解けることができました。また、時間配分が難しく想定していたよりも早く終わってしまうこともありました。それも次第に授業を重ねるごとに慣れて、うまくできるようになりました。予定より早く授業が進んでしまった時のために、あらかじめどうするのか考えておくことで慌てずに済むと思います。

授業ではマイクとレーザーポインターを使用してもらいました。そのため、ずっと前に立って話すのではなく、教室を歩きながら話すようにしていました。教室の構造上、前から生徒の顔が見えないので、歩きながら話すことで生徒に緊張感を与えることができました。また、ホワイトボードが教室の前と後ろに設置されていますが、前のホワイトボードはスクリーンがある関係で使用できず、後

ろのホワイトボードもプリンターなどが置いてある関係で使用できませんでした。与えられた環境でどう授業をやるかということも大事だと実感しました。



授業を行なった教室

## 3. 教育実習を終えて

3週間の教育実習を通して、様々な仕事を体験させていただき教師という仕事というのがとてもよくわかりました。私が考える教師という仕事は「自分次第」の仕事であるということです。3週間という短い期間でしたが、授業のやり方も様々なやり方があり、授業以外では部活に毎日参加する先生や朝や放課後生徒に個別で勉強を教える先生など様々な先生の姿がありました。どの先生が正しい、正しくないというのはなく、自分がどういう教師になりたいのかが大事なことであると感じました。しかし、どんな教師を目指すにしても生徒のことを考えることだけは忘れてはいけないことだと思います。教師が授業の手を抜いたりすることで、その影響は生徒が受けるからです。また、実習の3週間は大変なことがほとんどでしたが、その中でも生徒と関わる時間はとても楽しく感じました。特に生徒と1対1でコミュニケーションを取るときは、生徒の普段見えない姿などが見えたりもしたので、その部分がとても魅力的に感じました。教育実習では楽しいこと、辛いこと様々な経験をしましたがどれも教育実習でしか体験できない貴重な経験だと思いました。なので、無駄な経験はないと思うので、なんでも吸収しようとする姿勢で教育実習を行うとより充実した実習になると思います。

## 4. 終わりに

教育実習では失敗することが当たり前かもしれませんが、大事なことは失敗しないことではなく、失敗したときにどうするかということだと思います。なので、失敗を恐れずに誠実な姿勢で実習に挑むととても良い実習になると思います。

# 教育実習を終えて（数学）

春日部市立大沼中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 北村 陽奈

## 【はじめに】

私は5月20日から6月7日までの3週間、春日部市立大沼中学校で教育実習を行いました。私が中学生だった頃とは全く違い、非常におとなしい生徒たちでした。また、2週目の土曜日には体育祭も実施されました。体育祭までの生徒の成長は、私の想像を遥かに超えるものでした。そんな生徒たちや他の実習生、先生方との3週間の記録をみなさんにお届けできたらと思います。

## 【授業見学について】

授業見学は主に数学を中心に行いました。私の指導教諭は、自分の授業を真似して行うようにとおっしゃったため、私は必死に秒単位で授業のメモを取りました。最初は自分の授業を作りたいと思っていましたが、授業の構成の仕方など自分ではうまくいかない部分を先生の授業から学ぶことができました。また、私が中学生の頃から顧問をしてくださっていた英語の先生の授業も見学をしました。自分が中学生だった頃には、なぜ英語の時間に歌を歌うのか、じゃんけんで勝った方が英語を読むことにどんな意味があるのかなど、全く理解していなかったことを今では理解できるようになっていました。

前述の通り、実習中に体育祭もありました。私の担当した2年1組はやる気のある生徒とない生徒とで両極端の状況で、言うなれば崩壊寸前でした。予行ももちろんボロボロで、もうダメなのではないかと思っていましたが、そこに担任の先生の熱が加わり、体育祭2日前にして少しずつまとまりを見せ始めました。生徒同士で作戦を立て始める、いわゆる自立というものを教員の目線から見守ることができました。そして団結した2年1組が得られたものは、準優勝でした。

## 【教壇実習について】

教壇実習では、授業見学を何度も行ったにもかかわらず、授業につながりが見えなかったり、生徒に伝えたいことが伝わらなかったりしました。そこで私は授業後に近くにきた生徒にどこがわかりにくいかなど率直な感想を求め、改善を行いました。自分や指導教諭だけでは気が付けないことも多くあったため、生徒の意見は大変参考になりました。

また、数学以外にも学活や道徳の授業を担当させていただきました。学活では、「春日部



机間指導中の様子

調べ」といって、春日部郷土カルタに出てくる単語を用いた新聞作りを行いました。辞書だけでなくタブレットを使用していたことから、時代の変化を感じました。道徳では、ゴミの収集場所について話し合いました。多くの意見が出ましたが、どの意見も否定してはいけない難しさを学びました。

## 【教育実習を終えて】

たったの3週間でしたが、大学だけでは得られないことを多く経験することができました。時には学校へお菓子を持ってきたり、スマートフォンを持ってきたり、いじめなど生徒の問題行動も目の当たりにしました。それらの問題に介入し、生徒に自ら考えさせて解決することも教員の大切な役目だと思いました。生徒だけで何でもできるのであれば学校はいらないと思います。生徒のことを第一に考えて行動できる教員になりたいと思いました。

## 【おわりに】

私は、この教育実習に高校受験よりも大学受験よりも、今までの人生の中で最も熱意を注ぎました。自分が何事にも全力でぶつからないと生徒も応えてくれないと担任の先生はおっしゃいました。私もその通りだと思います。体育祭でもそうでしたが、生徒の可能性は無限大です。直前までのやる気や努力云々も大切ですが、その時どう感じてどう行動したかの方が勝ることがあると体育祭で学びました。

人と人とを繋ぐものは、言葉で言い表せないこともたくさんあると思います。みなさんも、ぜひ自分の最大限の力で教育実習に臨んでください。そして、自分が教育実習で目標とすることを達成してきてください。より良い教育実習となることを願っています。

## 1. 特別支援学校

特別支援学校では、知的障がいのある生徒が通う学校で体験を行った。私は、高校3年生のクラス担当になった。10名程度のクラス編成で、簡単なコミュニケーションは取れるものの、話を理解したり自分の意思を伝えたりすることが困難な生徒さんが多かった。2日間という短い期間なので、学び取れることは全部学び取ろうという気持ちで臨んだ。最初は話しかけても反応が少なかった生徒さんが、少しずつ心を開いてくれるのが嬉しかった。夢中に授業で課題を解決出来たらハイタッチしたり、一緒に部活に参加して汗を流したりしていたら、自分が高校生の時を思い出して、心が温かくなった。どんなに些細なことでも、私に話しかけて報告してくれる生徒さんたちを、とても愛おしく感じた。また、先生方の、生徒さんが出来ることを積極的に伸ばそうとしているところが大いに勉強になった。この姿勢は教員だけでなく、どの職種においても言えることだと考えた。特別支援学校の生徒さんたちは、決して何もできないわけではないということが一番に伝えたい。むしろ、生徒さん自らが、どんな授業でも一生懸命に学ぼうとするし、出来ないことも向き合おうとしている。そんな姿勢に、私のほうがたくさん元気と笑顔を貰った。

## 2. 社会福祉施設

社会福祉施設では、入居者さんの平均年齢が80歳越えの方々の下で体験を行った。体験の主な内容としては、利用者さんとのコミュニケーションを取ったり、普段行われているクラブ活動やレクリエーションに参加したりした。私が思っていたよりも活発な様子の方々が多くて、非常に驚いた。当初は、介護士さんや相談員さんが全てを管理してお世話するイメージだったので、良い意味でギャップがあった。特にデイサービスの利用者さんは、手足や腰が悪い方がいらっしゃるものの、私が話しかけると色々なことを教えてくれた。施設での日常生活から、利用者さん自身のことや趣味のことなど、聞いていて

非常に興味深いことが多かった。話していて思わず笑ってしまったり、何気ない言葉に感動して涙してしまったりした。それくらい、人生の先輩として経験がある方が多くいらっちゃった。また、施設全体のイベントも催されていることも分かった。運動会やクラブ活動、音楽会などが例として挙げられる。利用者さんたちの楽しみや自発行為のきっかけ・刺激のために行っていると職員の方から聞いた。ただ身の回りのお世話をするのではなく、どうしたら快適に施設で過ごせるかを献身的に考え行動する職員さんたちを見て、尊敬の念を抱かずにはいられなかった。



社会福祉施設の皆様へのお礼状

## 3. 体験を通して

今回の体験を通して学んだことは、人には必ず出来ることがあるということだ。生徒さんや利用者さん、そして私にも当てはまる。何かしらの壁や障がいを感じることは誰しもある。でも、手を差し伸べる・差し伸べてもらうことによって、少しずつ出来ることが増えていくのではないだろうか。全ての体験が終わったとき、私の心がいつもより温かく優しい気持ちに包まれた。相手にも自分にも、少しの思いやりが心を育てていくのではないだろうか。これは二つの施設で体験しなければ、学べなかったことである。普段は行くことが少ない施設だからこそ得られるものも多く、これからの教職の勉学の励みになった。この先、辛いことに直面した時、この体験を思い出してまた前を向きたいと思う。最後に、今回の体験に関わったすべての方々にご場を借りてお礼を申し上げたい。

## 1 はじめに

教員採用試験が終わって、1ヶ月がすぎた。合格発表も終わり、合格だったにせよ、不合格だったにせよ、そろそろ今後のことを考えなければいけない時期。そのような折に開催されたのがこの教職公開講座であった。私自身も、この講座を自分の今後を考えるために役立てたい。そのような思いで臨んだ。

## 2 「教員」という職業で最も大切なこと

多くの先生方のお話を拝聴する中で、どの先生もおっしゃっていたことがある。それは、「教員という職業に就く上で最も大切なことは、『自分が教員という職業を心の底から好きであること』だ。」ということである。

今、教員という職業には様々な問題点が挙げられているが、その中でも大きいのが長時間労働と多忙化である。「教員はブラック企業だ。」という言葉をよく耳にする。確かに一般的な企業と比較したとき、労働時間は圧倒的に教員の方が長いし、一人の教員が担わなければならない仕事の量も膨大である。しかし、この現状をブラックであると感じている先生は、私がお話を聴いた中には一人もいられなかった。それは先生方が自分たちの仕事に誇りを持ち、常に生徒たちのことを考えて仕事をしているからであった。例えば、日々の教材研究1つを取っても、苦勞してつくり上げた授業が成功したときの生徒たちの笑顔があるから頑張ることができるのだという。日々の多忙な業務について大変だと口ではおっしゃいながらも、どこか楽しそうに、また嬉しそうにお話されている先生方を見て、心の底からこの職業が大好きであることがひしひしと伝わってきた。私も生徒第一（スチューデントファースト）の精神を忘れず、どのような仕事も生徒のためと笑ってこ

なしていきける、そんな教員を目指していきたい。

## 3 学生のうちにやっておくべきこと

先生方とのディスカッションで、「学生のうちにやっておくべきこと」の話題が挙がった。その中で最も印象に残った、というより最も後輩に伝えておきたいと思ったことが1つある。それは「大学生のうちに様々なことにチャレンジしておくこと」である。「自らの引き出しを増やしておくこと」と、言い換えることもできる。教員になれば、当然たくさん生徒たちと出会うことになる。生徒はそれぞれ十人十色。そのような生徒たちと日々生活していく中でどのようにして打ち解けあっていけばよいのか。私自身も、同じことで教育実習中に悩んだ。この問いに明確な答えはない。しかし、やはりまず基本は話してみることだ。生徒一人一人と正面から向き合って話し、生徒のことを理解する。その時に、自分の引き出しからその生徒に適した話題を見つけ出すことができれば、生徒はとても話しやすくなるだろう。他にも、授業構成を考える際に、自らの経験が多ければ多いだけ様々な導入、展開を考えることができる。教員になってからできる経験もあるが、一番経験を豊富に積むことができるのは自由な時間が多い大学生活である。大学生活4年間を有意義に過ごすことが教員になったときに大きなアドバンテージになることを是非知っておいてもらいたい。

## 4 おわりに

この「教職公開講座」は、現職の先生方から現場の生のお話を聴くことができる貴重な機会である。私も、教員という職業の現状を知り、残りの大学生活をどのように過ごしていくかを考えるよいきっかけになった。4年生は教職実践演習を履修しなければならないので強制参加であるが、私はまだ教育実習に行っておらず、教員採用試験も控えている3年生にこそ参加してほしい講座だと感じた。どちらに対しても役に立つ実践的なお話を聴くことができるだろう。教員を取り巻く厳しい現状をすぐに変えていくことは難しい。しかし、諦めずに種々の課題と向き合い続け、私の仕事はやりがいのある良い仕事だと胸を張って言える。そんな教員になりたいと思う。



## 1. はじめに

私自身、課題や目的をもって教育学会に出席することができた。教員を志す者として自分自身の今後に活かすことができるような時間とすることができたと感じている。一緒に出席した友人の中には教職に就かない者も多くいたが、彼らも目的意識を持って参加していた。来年度以降に参加する皆さんには、教育学会への出席が有意義な時間となるように、目的意識を持って参加してほしいと思う。

## 2. 講演会について

上田和勇先生から「学校における安全文化と復元力の醸成」をテーマにご講演いただいた。学校だけではなく、リスクマネジメントの観点から多角的な視点でお話を聞くことができた。私が印象に残っている先生のお話を二つ紹介する。

一つ目は、リスクマネジメントをしていくにあたって、ハードコントロールではなくソフトコントロールを重視していく必要があるというお話である。ハードコントロールには限界があり、柔軟な思考で臨機応変な対応が必要である。ディザスターの連鎖を防ぐために、マニュアルにないことが起こってしまった時にどのように対応する力が必要かということを考えることができた。未然防止のための対策と、起こってしまった事に対する早急な対応という2点が重要であると感じた。そして一人で対応するのではなく組織で連携を取り、対応していく必要がある。私自身もマニュアルにとらわれすぎない柔軟な思考、臨機応変な対応力を養っていきたいと感じた。

二つ目は、教員として求められるリスク管理としての組織的な対応についてのお話である。学校の管理職の先生方と学級担任（現場）の先生がコミュニケーションをしっかりとることで、現状を把握し危機感が生まれ、リスク管理がしやすくなるのである。リスクは常に変化するため、新しい情報を得ながら対応していく必要がある。私は、SNSやインターネット等の発展から情報社会と言われる現在では情報の精査もリスクマネジメントの一つではないかと思った。学校だけに限らず、家庭教育の一環としてもデマ情報やフェイクニュース等に騙されないための教育や指導をしていく必要があると考える。

上田先生のお話から多くの学びと、今後の

課題について考えることができた。

## 3. 研究報告会について

研究報告会は「越境的なコラボレーションとキャリア教育の実践」をテーマに様々な観点でお話をいただいた。様々な視点や角度からキャリア教育を考えることができたと思う。

私が印象に残っているのはキャリア教育の一環として実践されているプログラムである地域開発・町おこしに学生が積極的に参加することで、多くの経験を経てキャリア形成につなげることができているということである。今後、参加した学生が周囲の学生へ体験から得たことをアウトプットすることでこの活動が広がっていくと良いと思った。また、私立の学校だけにとどまらず、公立の学校でも地域と学校のつながりを密にして、このようなプログラムを行っていくことができると良いと思う。現在義務教育課程におけるキャリア教育が、職業教育としての職場体験等にとどまっている現状から一歩前進するために様々な実践を行っていく必要があると感じた。そして、企業等との連携プロジェクトとしてインターンシップ等を行い、実践していくことが増えていくと良いと思う。

## 4. おわりに

本学会を通じて今後の自己課題や、学校という一つの組織の一員として働く上での課題を見出すことができたと感じる。今回学んだことを活かし、リスクマネジメントをする力を養っていききたいと思う。キャリア教育について様々な視点から考え、児童生徒のキャリアにプラスにしていくことができるような教育をしていきたいと考える。また、来年度以降は本学会の本会員として参加したいと思った。



## 1. はじめに

教職実践演習とは、4年次後期に開講される必修科目であり、教職課程の総仕上げとして位置付けられている科目です。私は福山文子先生が担当されている講義を履修しました。この講義のねらいは、変化の激しいこれからの社会において、将来、自分が教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることです。

90分の講義では、前半に教育に関する諸テーマについての現状を把握・理解し、後半にそれらに関して小グループに分かれて意見を交換したり、議論したりし、最後に発表を行いました。その他にも、教職公開講座や教育学会への参加、学校見学など、教職課程の総仕上げとしてふさわしい、実際の現場を知ることのできる機会も数多くありました。したがって、ただ漠然と講義を聴くだけでなく、自らも体感しながら教育に関して深く学ぶことができる科目だと思っています。

## 2. 教職実践演習から得た成果と課題

私はこの教職実践演習を半年間受けてきて、一番感じていることは、教員という存在価値を知ることができたことです。講義では外国人生徒に対する教育やICT教育、いじめや不登校の問題、部活動指導や教育格差等、実に様々な教育テーマについて学びました。そうした議論を活発化させる中で、それぞれの課題や問題がある中でも、教員は生徒のことをまず考え、常に学び続け、考えていく必要があるということを感じました。しかし、何も知識や経験がない状態では、そうしたことは実行できません。だからこそ、この講義



教育実習最終日に（最前列中央が筆者）

が教職課程の集大成として存在し、実際に現場に出た際に即戦力となって活躍できるようにするものだと思います。

また、私はずっと教員になりたいと思ってはいたものの、教員になったら自分は何ができるのか、何をしていかなければならないのか、といった具体的な目標があったわけではありませんでした。だからこそ、大学生生活最後の教職実践演習を通して、教員としての明確な目標を定めたいと思っていました。したがって講義で扱うような教育テーマに対しても興味・関心を持ち、また自分の意見を押し通すのではなく、周りの仲間の意見もしっかりと聞き入れ、視野を広げることを意識しました。その結果、「生徒から信頼され、自分も生徒一人ひとりに真摯に向き合うことのできる教員になる」という明確な目標を掲げることができました。講義の中では教員に関する不祥事や問題といったマイナスな内容を扱うこともしばしばありました。しかし、私は掲げた目標を実現していくために、このような内容にも積極的に考えていくということを意識し、生徒に信頼される教員とは何なのかを追究していきました。

時代が変わるごとに、生徒のニーズも多様化していることは事実です。学習指導要領の改訂やセンター試験の廃止に伴う大学入学共通テストの実施など、常に教育というものは変革していきます。だからこそ、我々教職課程を履修している学生たちは、アンテナを張り、教養を深め、様々なことに問題意識を持ち、チャレンジしていくことが何よりも大切であると感じました。

## 3. 最後に

教職実践演習の講義を通して、多くの先生方から、多くのことを学ばせていただきました。正直ここには書き尽くすことができないほど学んだと感じています。そしてそれと同時に教員の存在価値、教員としての目標も明確にすることができました。この場をお借りして、教員を目指す私たち学生に、熱い言葉で語りかけ、教員という仕事の意義や大切さを教えてくださった先生方に心より感謝申し上げます。教職実践演習、そして教職課程を通して学んだことを忘れず、今後も邁進していきたいと思っています。



私は2019年9月から神奈川県立座間総合高等学校にて、教科研修生として毎週月曜日の4時限目の「世界史B」の授業に参加させていただきました。

私が教科研修生をさせていただこうと思った理由は、大学での学びだけでなく、実際の教育現場での授業づくりや雰囲気を自分の目で見て、体感することで、教員を目指す上での貴重な学びができる機会だと考えたからです。

また、毎週同じ授業を見学させていただくことで、先生がどのような授業展開をされているか、クラスの生徒との関わり方なども知ることが重要であると考え、教科研修生に応募させていただきました。

教科研修では、基本的に教室の後方で授業を見学させていただき、時に机間巡視をすることもありました。研修生という立場であったため、高校時代に授業を受けていた時とは全く異なり、新鮮な気持ちで授業を見学させていただきました。また、高校時代には気付かなかった先生の様々な工夫や授業づくりについて、多くの気付きがありました。

私は教科研修を通して、授業時での発問が特に勉強になりました。先生は自然にされていると思いますが、生徒の様子を見て、授業の雰囲気に合わせて発問をされていると感じました。また、その発問内容も多様であり、生徒に考えさせるものが多く含まれており、今後の授業づくりの参考にさせていただきたいと思いました。私は大学で模擬授業をした時には、発問することやタイミングは決めた通りにしかやっていたので、先生の臨機応変さに気付かされました。そうしたことは、経験の積み重ねもあるかもしれませんが、発問は授業を展開する上で軸となるものであるため、しっかりと準備して対応する大切さを学びました。

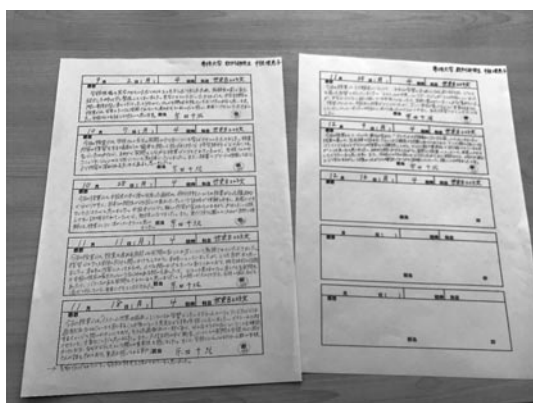
そして、先生と生徒の信頼関係ができていくことの重要性も感じました。授業前の休み時間などに質問に来た生徒に丁寧に答えたり、生徒に声かけをされていたり、日常的にコミュニケーションを欠かさずにとらえていて、将来私もこのように生徒と関わっていく、信頼関係を築ける教師になりたいと強く

思いました。

また、印象的だったのは、単元の区切りで生徒にレポートを出していたことです。その内容は、興味を持つ事柄からテーマを一つ決め、教科書や資料集を用いて個人で調べさせ、考察と感想を書くというものでした。一つの単元について学習した後に、そのまとめとしてレポートを書くことは内容を整理でき、かつ生徒主体であるため、とても良い方法であると感じました。

教科研修の反省点として、生徒とのコミュニケーションがあまりとれなかったことです。教科研修が週に一回の授業であったこともあり、コミュニケーションをとる機会も少なかったということもありますが、授業前などに自分からもっと積極的に声をかけてもよかったのかなと思います。早めに教室に行った時には話しかけてくれた生徒もいたのですが、毎回はできませんでした。先生と生徒との信頼関係を築く上で、コミュニケーションをきちんとすることは欠かせません。また、生徒と授業を作り上げることにも必要なことであると思います。

教科研修はとても短い期間でしたが、実際の教育現場でしか学ぶことのできない多くのことを学ばせていただきました。今回の機会ですんだことや反省点を、4年生での教育実習で活かしていきたいと思います。また、教師という仕事の魅力についてさらに感じる事ができ、教師になりたいという思いがより強くなりました。今回の教科研修でお世話になった方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。



毎回の教科研修後に感想等を書いた記録シート

## 1. はじめに

私は毎週木曜日の午前中に、川崎市立中野島中学校で教育ボランティアを行なっています。ボランティアを始めようと思ったきっかけは、将来教員になるために今のうちから教育現場に足を運んで様々なことを吸収したいと思ったからです。また、ボランティアを通して生徒と関わることで、普段どんなことを考えて生活しているのか、学習面でどういったところを苦手とし、つまづいているのかなどを知ることができると思ったからです。

## 2. 活動内容

教育ボランティアの活動内容は主に、各教科ごとに個別指導を希望する生徒に対し別室で教科指導を行う「取り出し」というものです。私は国語、英語、数学の指導を担当しました。国語では漢字練習、英語では授業で使っているプリントを用いて英作文の指導、数学では教科書を使って授業の進度や苦手分野に合わせた指導を行っています。一度にだいたい1人から3人の生徒へ指導するので、学級に入るのとは違ってかなり負担は少なかったです。取り出し形式のボランティアだったことでの良い点は、生徒が問題に取り組む様子をよく観察できることだと感じました。30人近い生徒を一度に指導する場合、一人一人の生徒の取り組みを細かく見ることは難しいですが、私の場合は多くても3人ほどの生徒だったため、生徒の手が止まるのはどのようなところか、どういったミスをする傾向にあるかなど細かく様子を見ることができました。

## 3. 教育ボランティアを通じて

週に1日ではありましたが、教育ボランティアを経験したことでたくさんのご縁を得ることができました。まずは、実際に学校現

場で働いている現職教員の皆さんと話す機会を持てたことです。先生方同士や先生と生徒とのコミュニケーションの取り方などとても参考になりました。他にも、教科を指導する練習ができたことです。アルバイトで塾講師をしているため、中学生を相手に数学を教えることは毎週行っていますが、取り出しの生徒と塾で担当している生徒では学習状況や性格、苦手分野などが異なるため、その生徒に合った教え方を試行錯誤することができました。例えば、自分だけではなかなか問題を解けない生徒には、こちらからたくさん問いかけをしたりヒントを出したり、疑問に思ったことを何でも聞いてきてくれる生徒には、解説をしながらそれに関連する内容を教えたりなどしました。生徒の個性を尊重しながら指導できるように、教え方を色々試しながらできたことはとても貴重なことであったと思います。

## 4. 終わりに

教育ボランティアとして実際に中学校にお邪魔させていただいたことで、生徒として学校に通っていた時とは異なる視点から学校の様子を見ることができました。また、現職教員として働いている先生方の姿を見て、理想の教員像が明確になり、教員への憧れがより一層強まりました。この経験をこれから先教員を目指していく上で生かしていきたいと思います。最後になりますが、お忙しいところ教育ボランティアとして受け入れてくださり貴重な経験をさせていただいた川崎市立中野島中学校の先生方、生徒の皆さん、教育ボランティアを始めるにあたってたくさんサポートして下さった教務課資格課程の方々、大学関係者の方々に感謝しています。ありがとうございました。

### 1. はじめに

私は、令和元年度より専修大学附属高等学校に英語科の教員として勤務しております。人生初のクラス担任、校務分掌、部活指導と、講師時代よりも仕事は幅広く責任も重くなったと実感する一方、過去の自分から見れば、今は夢を叶えた「その先」にきているのだと、喜びを噛み締めることもしばしばです。

教育現場には様々な価値観をお持ちの先生方がいらっしゃいますし、それらは皆等しく尊いものです。また、教員も生徒にも得手不得手があります。その中で今回は、私なりに常日頃考えていることを述べたいと思います。

### 2. 教壇はステージ

「どんなにクラスの人数や規模が大きくなっても、1対多数ではなく1対1の束が集まったような意識を持っていたい」

これは、私の好きなミュージシャンの言葉の受け売りなのですが、私が人前に立つときに一貫して意識していることでもあります。とりわけ授業では、その時間をライブと考え、聴衆をどれだけ盛り上げるか、意識を向けさせるか、時に自分はMCに回ってホスト役に徹するか…クラスの状況を観察しながら、ひとつのショーを作り上げる感覚です。

満足のいく歌が歌えたステージでは必ず観客ひとりひとりの顔をちゃんと見ることができ、教育現場にも通じるころは、『『あなた』に届けたい』という気持ちの中の『あなた』を明確に提示できたとき、伝えたい気持ちが1対多数で薄まってしまうのではなく、1対1の束になれるのだということだと思っています。

### 3. 学問という自己表現

もちろん学校生活は授業や教科だけではありません。クラスの係や委員会、部活動など様々です。どの場面においても、私が生徒に学んでほしいと思うことはただ1つ、『学ぶ』ことは、それ自体が自己表現に繋がる、かけがえのないこと」だということです。自分を表現する方法を多く持つ人生は、必ず豊かなものになると信じているからです。

言語活動、身体表現や芸術だけではなく、例えば教科学習が趣味を深めていく足掛かり

になるときもあります。実際、趣味で取得した検定（色彩検定、化粧品検定、アロマセラピー検定、メンタルヘルスマネジメント検定、調理師免許など）は、すべて直接的に教員の仕事に直結するものではありませんが、学校で学んだ知識が大いに役に立ちました。私が英語を学ぼうと思ったのも、趣味で洋楽を歌いたいと練習し、歌詞を和訳していた高校時代のある日、英語の授業で洋楽を扱った授業に出会ったからです。

「自分の好きなことを極めれば学問になる」

これに気づけたことで、私は学ぶ楽しさを知ることが出来ました。

主体的に「学ぶ」ことは、学んだことに対して自分なりの意見や考えを持つということです。学んで得た知識や技術、思考は、誰にも奪うことのできない財産です。教員は、生徒が学びを通して感じたこと、考えたこと、伝えたいことに関して、その表現方法をアドバイスしたり、より良きものに導いていくサポートをしていく必要があると考えます。あくまで表現する内容を考えるのは生徒自身であり、教員ではありません。生徒自身が「伝えたい」と思ったことは、時間がたっても忘れないからです。

### 4. おわりに

かなり抽象的かつ概念的な話になってしまいましたが、私も日々模索しながら現場に立っています。理想を言うだけは簡単で、実際には上手くいかないことも多いです。実は本気で教員をやめようと転職活動もしたことがあります。それでも、教員を続けたいと思ったのは、何よりも私自身が学ぶ楽しさを知っていて、それを生徒に伝えたい気持ちは変えられなかったからだと思います。皆さんの少しだけ先を歩く者として、教員という「表現者」として、少しでも皆さんの心に留まる言葉があれば幸いです。



文化祭にて



図書館本館（生田キャンパス9号館）

# 司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9号館）

# 公立図書館の所管と2019年度の「図書館基礎特論」

経営学部 教授 荻原 幸子

## 1. はじめに

司書課程科目の「図書館基礎特論」は、“必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、基礎科目に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う”ことをねらいとされており<sup>1)</sup>、選択必修科目でもあることから、担当する私自身の関心に即応したテーマで授業を行っている。ここ何年かは「到達目標」を「(1) 公立図書館の運営面・サービス面の基盤である図書館法について、その内容を十分に理解し説明することができる(2) 公立図書館のあり方について、他者と議論話し合いをすることができる」として、「図書館法」に関する解説と、公立図書館サービスに関するグループディスカッションの二つの柱で構成している<sup>2)</sup>。

今年度の5月下旬から6月初旬にかけては、例年とは若干異なる展開となった。というのも、6月26日までを会期とする第198国会における審議の動向が、いわゆるストライクゾーンだったためである。授業では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に定める教育委員会の職務権限とともに、2014年の法改正において、首長による「教育長」の任命や「総合教育会議」の招集、「大綱」の策定が規定され、教育行政への首長の関与が拡大したことなどを解説する。さらに、公立図書館は教育委員会の所管に属する教育機関であり(同法21条)、その設置、管理及び廃止は教育委員会の職務権限であることや、図書館の利用規則は同法33条にもとづく教育委員会規則であることを説明する。

例年であれば、ここで次のテーマへと進むのであるが、今年度は「今まさに、こうした制度の改革が国会で審議されているところ」と続けて、「公立図書館の所管に関する審議の動向」という項目のもとに、次のような解説を加えることになった。

## 2. 公立図書館の所管に関する審議の動向

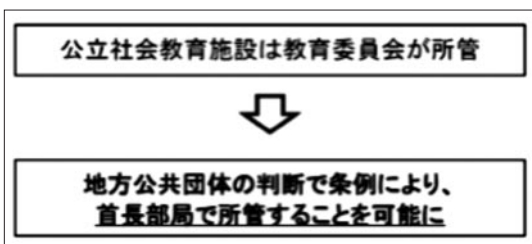
そもそもの発端は、2017年度の内閣府による「地方分権改革に関する提案募集」において、北海道、群馬県、三重県から「公立博物館の所管を教育委員会が担う規定(博物館法第19条)を、地方自治体の実情に応じて、条例で所管部局を決定できるよう改正を行うべきである」(下線は筆者による。以下同様)という内容の提案が提出されたことにある。地方自治体からの提案に応じて国は、2017年12月26日に「公立博物館については、まちづくり行政、観光行政等の他の行政分野との一体的な取組をより一層推進するため、地方公共団体の判断で条例により地方公共団体の長が所管することを可能とすることについて検討し、平成30年中に結論を得る。その結果に基づいて必要な措置を講ずる」ことを閣議決定した。これを受けて2018年2月9日に中央教育審議会生涯学習分科会に「公立社会教育施設の所管の在り方等に関するワーキンググループ」が設置された。同年3月2日には文部科学大臣より中央教育審議会に対して、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」が諮問され、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設が“地域の実情を踏まえつつ、地域活性化やまちづくり等の分野と効果的に連携を図るための運営のあり方や振興のための方策について、その所管の在り方も含め”検討することが要請された。中央教育審議会では、有識者による会議において、関係機関から表明された意見等を踏まえつつ、また、答申(案)に対する意見募集(パブリックコメント)を経て、2018年12月21日に答申文書を提出した。そこでは“社会教育に関する事務については今後とも教育委員会が所管することを基本とすべきであるが、公立社会教育施設の所管については、当該地方の実情等を踏まえ、当該地方にとってより効果的と判断される場合には、地方公共団体の判断により地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管することができることとする特例を設けることについて、「2.」で述べたような社会教育の適切な実施の確保に関する担保措置が講じられることを条件に、可とすべきと考える”と記された<sup>3)</sup>。すなわち、教育委員会が担うものとされてきた、公立図書館の設置とその運営に関する事務(規則の制定、各種事業の実施、職員の任命、審議会等の設置・委員の委嘱、運営状況の評価・情報提供等を含む)を、地方自治体の判断により首長(首長



(写真提供：ピクスタ)

部局)が担うことも可能であるとする判断が示されたのである。

本答申の趣旨は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「社会教育法」、「図書館法」、「博物館法」の改正を含む「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律案」として2019年3月8日に内閣府より国会に提出された。そして、5月10日の衆議院本会議、5月31日の参議院本会議においてそれぞれ可決された後に、令和元年法律第26号として6月7日に公布された。法改正の意義については、公立図書館の運営を首長(首長部局)の職務権限とすることにより、“観光・地域振興分野やまちづくり分野を担う首長部局で一体的に所管できるようになり、社会教育のさらなる振興はもとより、文化・観光振興や地域コミュニティの持続的発展等に資する”と説明されている<sup>4)</sup>。



出典：内閣府ホームページ  
(<https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/doc/09ikkatsu-gaiyoukouhu.pdf>) より抜粋

### 3. おわりに

今年度の授業は金曜日の5時限であった。5月24日(金)の授業では「法律案」、翌々週の授業(6月7日)以降は公布された「法律」として解説するという事態に、私自身が情報収集と整理にあけて、多少粗削りな授業になってしまったことは否めない。ただし、政治的中立性を根拠に反対する図書館関連団体の意見・見解を示し、また、参議院内閣委員会の審議中継の動画を活用しつつ、個人的見解は極力抑制して、これまで通り教育委員会の職務権限とするか、新たに首長部局の職務権限とするかは、あくまでも各自治体の住民の判断であり、すなわち、受講生の皆さんの判断でもあるということは強調した・・・つもりである。受講生からは、“なにか劇的な変化が起き、私達市民にどんな影響があるのか想像しづらい”という率直な意見や、“首長部局の職務権限とすることのメリットを現状と比較してみることが大事ではないか”、“教育委員会と地方公共団体とが協

力しあい、互いの短所を上手く補い合って行われるべきだと思う”など、冷静な意見が聞かれた。

思い出すのは1990年代末の図書館法改正の際に、ただ会場に居ればよいと恩師に言われて参加した研究集会のことである。国庫補助を受ける公立図書館の館長は司書資格を有する者でなければならないとする条文(第13条3項)や、国からの補助金を受けるための設置及び運営上の最低基準を定める条文(第19条)が削除されるという、思えばかなり重大な法改正の局面であったが、当時は理解が及ばず、言われた通りただ座っているだけであった。それでも会場の熱気はうっすらと覚えている。今年度の受講生が(あるいは、本稿の読者が)この機会に、今般の法改正が各自の地元の公立図書館に影響するかどうかには注意を向けるようになれば、あるいは、一つの法律が改正される際のプロセスにうっすらとでも関心を持つきっかけになればと願っている。

この夏に何人かの公立図書館長や図書館関係者の見解を伺った限りでは、早々に状況が変わることはないとのことであった。一方で、秋の気配とともに、一部の自治体では首長(首長部局)の職務権限とする動きがあることが報道されている。

### 注・引用文献

- 1) これからの図書館の在り方検討協力者会議「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について」2009.2
- 2) グループディスカッションについては、本誌vol.19(2017.3)の「公共図書館運営に住民間の「話し合い」を」(p.6-7)の後段で少し述べている。
- 3) 中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」(中教審第212号)2018.12,p.31. なお引用文中の“[2.]で述べたような”は、第2章「2. 社会教育の適切な実施の確保の在り方について」において政治的中立性の確保や地域住民の意向の反映等のために、教育委員会による一定の関与などの担保措置の検討が必要であると記されていること(p.30)を指す。
- 4) 内閣府地方分権改革推進室「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律(第9次地方分権一括法)の概要」2019.6 <https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/doc/09ikkatsu-gaiyoukouhu.pdf>, (参照2019-11-04)

## 図書館実習を終えて

川崎市立中原図書館 文学部日本文学文化学科3年 瀬山 紗菜

私は10月31日から11月3日までの4日間、川崎市立中原図書館で実習をさせていただきました。川崎市立中原図書館は武蔵小杉駅から徒歩1分、ショッピングセンターやタワーマンションが入居した武蔵小杉西街区ビルの5・6階にあり、その規模の大きさから中央館を持たない川崎市立図書館の中央館的役割を担っている図書館です。

4日間の実習の中で、前半は図書館で行われている基本的な業務を、後半は児童向けのイベント運営を体験させていただきました。

実習初日は、まず館内の案内や全体的な業務の内容などを解説していただきました。中原図書館は貸出などの自動化が進んでおり、特に予約本の受け取りはほぼ完全に利用者のみで行うようになっています。貸出カードを端末に読み込むと、棚に設置された機器が自動で本の場所を読み取り、その結果が紙で印刷されます。それを頼りに利用者は自分の予約本を探し自動貸出機を使って借りる仕組みになっています。川崎市立図書館の中でも中原図書館はとても自動化が進んでおり、アクセスがよく利用者数の多い図書館ならではの感じました。自動化の進む前の中原図書館では、混雑時には何百人という人がカウンターに並び貸出に数十分かかっていたこともあったという話を聞き、設備面でのサービス向上も重要だなと感じました。



装備させて頂いた本

その後は装備作業をさせていただきました。中原図書館では資料の形態に合わせてフィルムを貼るなど補強をして利用者に提供しています。私は文庫本と雑誌の装備を体験させていただきましたが気泡が発生しないようにフィルムを貼るのがとても難しく苦勞しました。利用者の視点では当たり前のように綺麗に装備された本を借りていますが、実際に装備されるまでの苦勞は体験してみないと分からずとて



イベント開始前の会場

も勉強になりました。

二日目は相互貸借作業と翌日から行われるイベントの準備を行いました。相互貸借作業では、他県の図書館から川崎市立図書館あてに送られてきた本の仕分けと、その中で中原図書館あてに送られてきた本の仕分けを行いました。他都市から送られてきた本は中原図書館を中継地点として各図書館に届けられており、中原図書館が川崎市立図書館の実質的中央館である所以だと感じました。

三日目、四日目は中原図書館で行われている「ほんのもり」という子供向けのイベントのお手伝いをさせていただきました。ボランティアの方々が中心となって行っているもので、パワフルなボランティアの方々に圧倒されました。イベントで使用する工作の材料や飾りなどはボランティアの方々の手作りのものがほとんどで、やはり公共図書館にはボランティアの方々の存在が不可欠だと感じました。

また、別途お時間を頂いて宮前図書館で移動図書館についても教えて頂き、実際に今使われている移動図書館車の「たちばな号」の中も見せていただきました。

今回の実習を通して、利用者目線や普段の座学では分からない実際の現場の様子や図書館で働く楽しさ、苦勞や問題点などを肌で感じる事が出来ました。私は中原図書館以外にも専修大学図書館での実習もやらせていただいたので、公立図書館と大学図書館の違いを自分の目で見る事が出来たこともとても良い勉強になりました。

最後に、お忙しい中実習を受け入れてくださり丁寧に指導して下さった職員の皆様方にとっても感謝しています。ありがとうございました。



## 1. はじめに

私は今年の4月からドルトン東京学園という私立の中高一貫校で、学校司書として勤務しています。今回寄稿するにあたり、まずは学校司書職として採用されるまでの流れを書かせていただき、学校司書を目指すみなさんの参考になればという思いです。

私立学校の学校司書の採用は、各学校ごとに採用試験が行われています。このあたりは企業の就職活動のイメージと同じかと思いません。私立学校の求人情報は多様な形態で公募されるので、各学校のHPのほか、財団法人日本私学教育研究所の採用情報、各都道府県の私立学校協会HP等で情報収集を行うとよいです。また、私立学校の教員採用・求人情報サイトへの登録をすることも、情報収集の上では有効な手立てです。採用試験の内容は、各校様々かと思いますが、面接試験に加えて論文や司書の専門性を問う試験が行われることが多いようです。

私立学校の教育理念と教育方針は、学校により様々です。公立にはない建学の精神に根差した深い全人教育が、私立学校の最大の教育特色となっています。それらの教育理念と教育特色を理解し賛同した上で、学校司書としてどのような教育的貢献が出来るかということを考えながら、採用試験に臨むことをお勧めします。

## 2. 学校図書館での仕事

現在勤務しているドルトン東京学園中等部・高等部は、今年度開校したばかりの中高一貫校です。その為、まだ現在は中等部1年生しかいません。ドルトンプランという教育メソッドに基づき、生徒の知的な興味や探究心を原点にした「学習者中心の教育」を6年間を通して実践していきます。

学校図書館はラーニング commons と呼ばれ、校舎の中心に位置し、ドルトンプランの実



ラーニング commons の全体像

践にふさわしい総合的な学びができる場となっています。その為、授業利用や教科との連携も多く、常に学校図書館には人が溢れている状態です。まだ1年目の産まれたばかりの学校図書

館ですが、自由で主体的で創造的な活動を促す環境づくりを、常に心がけています。また、夏には電子図書館も開設し、生徒一人一人にあった読書環境の整備にも取り組んでいます。

そのような恵まれた環境の中、生徒たちは様々なニーズを持って日々、学校図書館を利用しています。楽しむための本を求めている場合もあれば、学習課題を解決するための資料を求めている場合もあります。生徒一人一人と関わり、個の学びに応じたレファレンスを行っていく中で、ニーズに応じた資料提供がスムーズに出来たときが、学校司書としてのやりがいが一番感じる瞬間です。



新たに設置した特集コーナー (教職員のおすすめの本コーナー)

## 3. おわりに

私は今の職に就くまでの数年間、都内の公立小学校で業務委託の学校司書として勤務しながら、学校司書課程で学びました。文学部に在籍していた現役の大学生のときに、教員免許と司書教諭資格(その後、他校で司書資格取得)は取得していましたが、10年以上前の知識でしたので、知識の上書きが必要であると実感していました。

仕事をしながらの通学は大変でしたが、変化し続ける学校や図書館、出版業界を取り巻く現状を知り、電子書籍などの新たなメディアの登場による日々更新される新たな知識を学ぶことは、日々の業務や採用試験にも大いに活かされました。

このことから、学校司書の心構えとして大切なことは「常に新しい情報にアンテナを張ること」と「学び続ける姿勢を持ち続けること」であると感じています。

最初は正規の学校司書職としての採用が難しかったとしても、非常勤職員や業務委託等の学校司書の職に就いて、経験と実績を積みながら現場を知り、就職活動をしていくことも一つの選択肢なのではと思います。

学校司書の配置は、現在は努力義務ではあるものの、近年の教育活動における学校図書館活用への期待から、配置する学校は私立・公立ともに増加傾向にあるといえます。こうした期待に応えられる人を学校現場は求めているということを意識して、目標をもって諦めることなく学んで欲しいと願っています。



黒門（平成 22 年復元・神田キャンパス）

# 学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2号館）

# 県立美術館の仕事

石川県立美術館 学芸員 奈良 竜一（平成26年度文学研究科歴史学専攻修了）

## 1 はじめに

わたしは昨年度より石川県立美術館で勤務しています。大学では中国史や陶磁器に関心を持ち学んでいましたが、美術館ではそれらとはあまり関係ない作品を担当しています。また、展示以外では教育普及など対外的な業務も行っています。今回は、実際に学芸員となり印象に残った仕事を紹介したいと思います。

## 2 館の概要

私が勤務している石川県立美術館は石川県金沢市にあります。石川県は、江戸時代から加賀藩主前田家の保護育成政策により文化の華が開き、その伝統が今日まで継承されています。絵画や工芸の歴史的名作が伝来している上に、作家の層も厚く、重要無形文化財保持者（人間国宝）・日本芸術院会員に認定される作家も多く輩出しており、水準の高い美術工芸の盛んな地域として知られています。また茶道文化も強く根付いています。

そのような土地柄にある当館は、古美術（明治以前）、近現代工芸、純粋美術の3つの分野の作品を収蔵しています。

## 3 仕事の概要

美術館での仕事は多岐にわたります。まずは展示です。当館はだいたい約1ヶ月のスパンでコレクション展の展示替えがあり、その他に年に3回当館の特別展のための展示作業があります。先に挙げた3つの分野ごとに作業内容はかなり違います。私の場合は、純粋美術（洋画、日本画、彫刻（彫塑）、版画、水彩、素描、写真など）の展示を担当しています。展示作業は、ほとんど業者を使うことなく、学芸員のみでおこなっています。

日本画、洋画、彫刻（彫塑）は大型作品が多く、かなり重いため、ひとりで作品をもつことはほとんどありません。

また、作業のほとんどが力仕事です。高所作業台に乗り照明を調節したり、作品のワイヤー



学校出前講座 浮世絵の説明

を設置したり、大型の機材を使って作品を持ち上げたり等々、みなさんが思っている学芸員のイメージとは大きくかけ離れているかもしれません。

次に作品の収集について、実際の例を説明したいと思います。作品収集は、基本的には所蔵者もしくは作家本人から寄附・寄贈の申し出がある場合におこないます。今回は洋画家・村田省蔵氏の作品の収集についてお話します。

まずは寄附・寄贈の申し出のあった作家宅に伺い、実際の作品を調査します。それと同時に、収蔵までの手順や書類などの事務的な説明の後に、館でどのように保存するか、あるいはどのような展示をするかなどのお話をします。この時、例えばアトリエではどのように過ごしていたか、スケッチはこんな風にしていた等、展示に活かせるような作家の情報や画業について知ることができるので、聞きたいことをまとめておきます。

2019年6月14日から7月22日に当館でおこなった「村田省蔵展」では、村田氏の作品と一緒に寄贈いただいたたくさんの方のスケッチブックと一緒に展示することができ、作品だけでなく、どのような行程で作品を描いたのか、どのようなところで着目して作品制作を行ったのかをうかがえる展覧会を開催することができました。作品以外のいわゆる「作家資料」（例えば、スケッチブック、図案など）は、館内の関係者以外には知ることのない「死蔵品」になることが多いので、当館ではできるだけ積極的に作品とともに展示することを心がけています。

話がそれましたが、実際の作品の収集は、美術品輸送業者とともに作家宅まで行き、梱包をして作品を受け取ります。業者と共に、美術輸送専用車に学芸員も同乗し、館まで帰るので効率的な日程を組むのが非常に難しいです。

次に、展覧会の企画です。ここでは当館で特別展や特別陳列について経験したことを紹介します。

館に入ってから私が担当したのは特別展「石川近代美術の100年」、「脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～」、「美術館創設60年のあゆみ 石川の美術」と、特別陳列「鈴木治男 共生の森」です。その他、毎月展示

替えのあるコレクション展でも展示構成を考えることになるので、所蔵作品について熟知していなければなりません。

ここでは、「脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～」と「鈴木治男 共生の森」の例で、印象に残った仕事について紹介します。

「脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～」で私が担当した業務は、他館への



脇田和と猪熊弦一郎チラシ(表)

出品交渉(ここでは香川県立ミュージアムと丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)や作品集荷など対外的な業務もちろんです。ポスター・チラシ制作、図録制作などクリエイティブな仕事が印象的でした。

ポスター・チラシ制作は、IllustratorとPhotoshopというソフトを使います。Photoshopで作品画像などの調子を整え、その画像を用いてillustratorというソフトでチラシ等を制作します。初めのうちは操作が難しいですが、慣れてくればWordのように簡単に使えますし、館内の様々な案内表示なども容易に作る事ができます。

ポスター・チラシ制作では、「目にとまること」「どんな展示かすぐわかること」「展覧会情報(日付、場所など)がひとめでわかる」ことを意識しました。制作にあたりRobin Williams、米谷テツヤ『ノンデザイナーズ・デザインブック』(マイナビ出版、2016)は、非常に参考になりました。余談ですが、学芸員になるならillustratorなどのソフトを使えるようになっておいた方が良いと思います。

「鈴木治男 共生の森」では、ポスターは制作していませんが、8ページほどの目録を制作しています。現在制作中なので完成品をお見せすることはできませんが、こちらもillustratorを使って制作しています。

また、この展示では、Dance Well 石川実行委員会と協力し、館のアクティビティーと

して展示室内でダンスをする活動を計画していて、当館では初めての試みです。Dance Well は、パーキンソン病と共に生きる方を含むすべての人に開かれたアートな空間で行われるダンス・クラスを開催している団体で、今回は「鈴木治男 共生の森」展の出品作品からインスピレーションを得てダンスをします。また、活動自体が未知数なのでどうなるのかはわかりませんが、作品鑑賞と共に何か体験するというのは、今後博物館・美術館の活動において必須になってくるように思います。そのためこのような活動を積極的に取り入れ、挑戦していきたいと考えています。

その他、ここでは紹介できませんでしたが、美術館友の会の運営・企画・立案、広報業務、学校出前講座(小・中学校に当館所蔵の作品

を持ち込み、対話型鑑賞プログラムをおこなう講座)、取材対応などもあります。



鈴木治男目録制作画面

#### 4 おわりに

学芸員は「雑芸員」と呼ばれるくらい、様々な事をしなければなりません。ここではあまり紹介しませんが、特に公立館の場合は、学芸員としての仕事以外に、行政の一環として様々な書類作成やその処理、活動をこなす必要があります。また、行政職と学芸職の間で価値観を共有するのはなかなか大変なことです。

その他に公立の美術館・博物館では必ずしも自分の専門に近い分野を担当できるとは限りません。まったく興味のない(なかった)分野を担当することもあるでしょう。そのため、学芸員になる前もなった後も、色々なアンテナを張り巡らせ情報を収集しておくことが大切です。

色々書いてきましたが、学芸員という仕事は、展示や出版、研究など色々なことができます。きつい仕事も多いですが、日々充実した日々を送れるでしょう。

# 博物館実習を終えて

袖ヶ浦市郷土博物館 文学部歴史学科3年 多賀井 寛有

私は7月31日から8月9日までの10日間（8月4日を除く）、千葉県袖ヶ浦市にある袖ヶ浦市郷土博物館で実習を行いました。袖ヶ浦市郷土博物館は袖ヶ浦公園の敷地内にあり、本館の他、屋外にアクアラインなるほど館、旧進藤家住宅、万葉植物園、上総掘りのアシバがあり、古代住居の広場では弥生時代と奈良時代の竪穴住居を復元展示しています。本館常設展示では、映像展示室、民俗展示室、情報提供室、産業展示室、歴史展示室があります。歴史展示室では、袖ヶ浦の歴史を近現代から原始に遡るように動線が作られているという特徴があります。

今回の実習では大きく分けて3つの業務に携わらせていただきました。1つ目は「館内業務」です。2つ目は調査研究の「フィールドワーク実習」、3つ目は「フィールドワーク実習」の調査成果を展示し解説したことです。



袖ヶ浦市郷土博物館

1つ目の「館内業務」では開館準備、屋外収蔵庫に収蔵されている「上総唐箕」の清掃、屋内収蔵庫内の清掃と収蔵資料の整理を行いました。収蔵庫の清掃・整理並びに「上総唐箕」の清掃では、収蔵資料に害虫がついていないかを注視するとともに、収蔵資料を汚損させないように特に気を配りました。学芸員の方が日常の収蔵環境の管理方法やIPMについて講義をしてくださったので、講義内容を活かして作業することができ、一般の来館者ではわからない展示されていない収蔵資料に対する学芸員の方たちの熱い想いに触れることができました。

2つ目の調査研究の「フィールドワーク実習」では、中世のムラ「横田郷」を2日間かけて歩き、調査しました。「横田郷」の特徴は、覚園寺に残された室町時代の土地台帳に記載されていた寺社名や地名が現在の横田でも確認することができることなどから、中世と現在を結ぶことができる大変貴重な地域です。1日目は実習生のほか、学芸員の方と市民学芸員の方々と踏査しました。2日目は3

人でグループを作り、グループごとにテーマを決めて精査しました。8月の暑い中でのフィールドワークでしたが、室町時代の土地台帳に記載されていた寺社名や地名を自分の足で歩くことによりわかることもあり、「横田郷」について深く学ぶことができました。また学芸員の方はフィールドワークの際、横田に住む方々と積極的にコミュニケーションをとり信頼関係を築こうとしていました。このことから、学芸員の仕事は博物館内だけの業務ではなく、館外で地域住民と信頼関係を築いたうえで調査し、展示に活かすということ学びました。

3つ目の「フィールドワーク実習」の調査成果を展示し解説することでは、先ほど述べた「横田郷」のフィールドワークの調査成果をグループでまとめ、ミニ展示に仕上げ発表・解説をしました。実習生それぞれ研究している時代や地域も違う中での作業でしたが、協力して作業することができました。展示作業では、グループによって色分けする、地図や写真などを用いるなど、見てもらう人にどうしたら分かりやすく理解してもらうかを常に意識しながら作業を進めました。展示解説では、聞いている人に身近に感じてもらえるように現在の地名を多く使うことや、専門用語を使わずに分かりやすい言葉を使うように心がけました。実際に自分たちで調査成果をまとめ展示に仕上げ、解説することによって、学芸員の方たちがどのようなことを考え、業務にあたっているかを実感することができました。

今回の実習では、博物館のバックヤードやフィールドワーク、調査成果をまとめ展示解説を行うなど、一般の来館者ではできない貴重な体験をさせていただきました。館務実習に行く前と終えた後では博物館に対する見方、展示資料に対する見方が変わると思います。今回の実習で学んだことを忘れずにこれからも勉学に励んでいきたいと思えます。



フィールドワークの成果をまとめた展示

私は8月21日から9月2日の10日間(24・28・31日を省く)、福岡県にある九州国立博物館で実習を行いました。九州国立博物館は国内にある国立博物館の中で一番新しく建設された国立博物館で、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」をコンセプトに、日本の歴史をアジアと絡めながら学習することのできる博物館です。今回の実習では、施設運営や博物館科学、九州国立博物館が行っている教育普及事業について、作品の収集と管理、さらには文化財の撮影を実際に経験するなど、とても濃い実習内容でした。

様々な分野を専門的に学習した中で、私が一番学んだことは、生涯学習施設



きゅうばっく 遣唐使すごろく

としての博物館の重要性です。九州国立博物館では、様々な方を対象にした教育普及事業を行っています。一つ目は、障がいのある方への鑑賞支援です。鑑賞支援は全国の博物館で行われているものかと思いましたが、実際には行われていない館も多く、中には障がいのある方を受け入れない館もあるという現状を知りました。九州国立博物館では、展示案内や観覧ツアー、ワークショップなど障がいのある方に合わせ様々な鑑賞支援を行なっています。その中でも私は、立体プリンターを利用した展示案内の作成を体験しました。展示案内は、わかりやすくシンプルに、大きくデザインする必要があります。また口頭で案内する際にも、こそあど言葉を使用しないなど言葉の選



縄文時代の暮らしがわかるすごろく

び方も重要になっており、鑑賞支援を必要とする人に寄り添って考えていく必要があると感じました。

二つ目は、子供たちへの教育活動です。九州国立博物館では、「きゅうばっく」と呼

ばれる学習支援ツールを製作しており、学校に貸し出しを行っています。内容は、実際に触ることのできる実物資料はもちろん、かたやすごろくなども入っており、楽しみながら学習できる内容となっています。実際に体験してみると、教科書に載っている資料がそのまま目の前にあるためとても興奮しました。もちろんレプリカの資料もありますが、3Dプリンターを利用し作られているため迫力があります。すごろくも縄文時代の暮らしに基づいた内容になっているため、楽しみながら勉強できる内容であると感じました。今回、きゅうばっくを利用した教育活動を体験する中で、「体験格差」について知りました。博物館によく来る子供と来ない子供とでは、体験格差が生まれてしまうというものです。私自身、幼いころから博物館に連れて行ってもらっていたため、体験格差を考えたことがありませんでした。実習の中で、幼いころの博物館での体験や学習が、大人になってから博物館を生涯学習の場として利用するかどうかに影響するという話を聞きました。きゅうばっくを含め九州国立博物館が行っている教育普及事業は、学びを与えることに加えて、子供たちの体験格差を少しでも減らし、博物館に興味を持ってもらうためのツールであることを実感しました。



遣唐使の時代 きゅうばっく 中身

今回の実習を通して、生涯学習施設として博物館はただ存在するだけの施設ではなく、博物館自らが、生涯学習施設として多くの世代に利用してもらうためのアイデアを考え、利用してもらうきっかけづくりを積極的に行うことが大切だと感じました。またその中でも、相手の立場に寄り添い考えることが必要不可欠であるということも学ぶことができました。この実習では、授業で学んだことをより実践的に学習し体験することができ、とても貴重な経験になりました。



情報コアゾーン（生田キャンパス 10号館）



# データ編



2号館3号館（奥）（生田キャンパス）

令和元（平成31）年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和元年5月1日 現在

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	18	18	21	16	73
		国 際 経 済 学	4	3	9	10	26
	法	法 律 学	24	16	8	7	55
		政 治 学	7	12	5	6	30
	経 営	経 営 学	11	10	8	6	35
		マ ー ケ テ ィ ン グ	15	16	11	13	55
	商	会 計 学	1	5	5	5	16
		日 本 語 学	25	22	13	17	77
	文	日 本 文 学 文 化 学	15	26	18	18	77
		英 語 英 米 文 学	18	21	13	11	63
		哲 学	5	5	4	3	17
		歴 史 学	30	26	31	27	114
		環 境 地 理 学	6	7	2	4	19
	ネットワーク情報	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	-	11	4	0	15
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 学	10	14	12	10	46
	人 間 科	心 理 学	4	1	2	1	8
		社 会 学	5	6	9	4	24
小 計		198	219	175	158	750	
二 部	経 済	経 済 学	2	8	3	3	16
	法	法 律 学	3	1	2	4	10
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2	2	3	2	9
	小 計		7	11	8	9	35
合 計		205	230	183	167	785	
科 目 等 履 修 生		-	-	-	-	7	
大 学 院 生		-	-	-	-	4	
総 計		205	230	183	167	796	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。  
2 経営学部ビジネスデザイン学科及び文学部ジャーナリズム学科は、履修できない。

司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	2	1	1	4	8
		国 際 経 済 学	1	1	1	2	5
	法	法 律 学	3	1	6	4	14
		政 治 学	1	0	1	2	4
	経 営	経 営 学	3	2	0	1	6
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	-	-	-	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	3	4	9
		会 計 学	1	0	2	2	5
	文	日 本 語 学	2	7	4	7	20
		日 本 文 学 文 化 学	22	30	25	13	90
		英 語 英 米 文 学	1	2	3	3	9
		哲 学	2	6	6	5	19
		歴 史 学	8	12	14	11	45
	ネットワーク情報	環 境 地 理 学	0	0	4	1	5
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	-	13	6	2	21
	人 間 科	ジャ ー ナ リ ズ ム	7	-	-	-	7
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 学	1	5	0	5	11
小 計	心 理 学	4	1	0	1	6	
	社 会 学	3	4	2	3	12	
合 計		62	86	78	70	296	
二 部	経 済	経 済 学	0	2	2	2	6
	法	法 律 学	1	3	1	1	6
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	1	2	4
	小 計		1	6	4	5	16
合 計		63	92	82	75	312	
科 目 等 履 修 生		-	-	-	-	3	
大 学 院 生		-	-	-	-	1	
総 計		63	92	82	75	316	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	2	0	0	1	3
		国 際 経 済 学	0	1	1	0	2
	法	法 律 学	0	0	0	0	0
		政 治 学	0	0	0	0	0
	経 営	経 営 学	1	1	0	0	2
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1	2	1	1	5
	商	会 計 学	1	0	0	1	2
		日 本 語 学	3	7	2	0	12
	文	日 本 文 学 文 化 学	11	17	4	2	34
		英 語 英 米 文 学	1	1	1	0	3
		哲 学	2	3	0	1	6
		歴 史 学	6	1	2	0	9
		環 境 地 理 学	1	0	1	0	2
	ネットワーク情報	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	-	4	1	0	5
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 学	0	0	0	1	1
	人 間 科	心 理 学	2	0	0	0	2
		社 会 学	3	2	0	0	5
小 計		34	39	13	7	93	
二 部	経 済	経 済 学	0	1	0	0	1
	法	法 律 学	0	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	1	1
	小 計		0	1	0	1	2
合 計		34	40	13	8	95	
科 目 等 履 修 生		-	-	-	-	0	
大 学 院 生		-	-	-	-	0	
総 計		34	40	13	8	95	

- 1 4年次には、5年次以上も含む。  
2 経営学部ビジネスデザイン学科及び文学部ジャーナリズム学科は、履修できない。

データ編  
Passo a Passo

## 学校司書課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	0	1	0	0	1
		国際経済	0	1	0	0	1
	法	法律	1	0	1	0	2
		政治	1	0	1	0	2
	経営	経営	1	1	0	0	2
		ビジネスデザイン	0	-	-	-	0
	商	マーケティング	0	1	0	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	1	3	0	0	4
		日本文学文化	4	9	1	2	16
		英語英米文	0	2	2	0	4
		哲	0	2	0	1	3
		歴史	2	0	0	0	2
		環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	-	2	0	0	2
		ジャーナリズム	1	-	-	-	1
		ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	0	0	0
	人間科	心理	0	0	0	0	0
		社会	2	2	0	0	4
	小計		13	24	5	3	45
二部	経済	経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	1	0	0	1
	商	マーケティング	0	0	0	0	0
	小計		0	1	0	0	1
合計		13	25	5	3	46	
科目等履修生		-	-	-	-	6	
大学院生		-	-	-	-	0	
総合計		13	25	5	3	52	

1 4年次には、5年次以上も含む。

## 学芸員課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	0	0	0	0	0
		国際経済	1	0	1	0	2
	法	法律	0	0	0	0	0
		政治	1	0	0	0	1
	経営	経営	1	1	0	0	2
		ビジネスデザイン	0	-	-	-	0
	商	マーケティング	0	1	3	2	6
		会計	0	0	1	1	2
	文	日本語	1	2	0	1	4
		日本文学文化	3	4	3	3	13
		英語英米文	0	1	0	0	1
		哲	3	2	5	2	12
		歴史	23	21	25	4	73
		環境地理	1	1	5	1	8
		人文・ジャーナリズム	-	7	2	1	10
		ジャーナリズム	3	-	-	-	3
		ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	1	0	1
	人間科	心理	1	0	1	0	2
		社会	4	2	1	0	7
	小計		43	43	47	16	149
二部	経済	経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	0	0	1	1
	商	マーケティング	0	0	0	0	0
	小計		0	0	0	1	1
合計		43	43	47	17	150	
科目等履修生		-	-	-	-	1	
大学院生		-	-	-	-	6	
総合計		43	43	47	17	157	

1 4年次には、5年次以上も含む。

## 令和元（平成31）年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中学1種		高校1種		中学専修		高校専修		合計	
				教科	件数	教科	件数	教科	件数	教科	件数		
一 部	経 済	経 済	10	社 会	6	地 理 史 公 民 業	8 7 1	-	-	-	-	22	
		国 際 経 済	5	社 会	4	地 理 史 公 民 業	2 2 0	-	-	-	-	8	
	法	法 律	7	社 会	6	地 理 史 公 民 業	6 7	-	-	-	-	19	
		政 治	5	社 会	4	地 理 史 公 民 業	4 5	-	-	-	-	13	
	経 営	経 営	6	社 会	1	地 理 史 公 民 業 情 報	2 5 3	-	-	-	-	11	
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	11	社 会	2	地 理 史 公 民 業 情 報	3 3 10 0	-	-	-	-	18	
		会 計	3	-	-	商 業	3	-	-	-	-	3	
	文	日 本 語	14	国 語	12	国 語	14	-	-	-	-	26	
		日 本 文 学 文 化	15	国 語	11	国 語	15	-	-	-	-	28	
		英 語 英 米 文	10	外国語(英語)	8	外国語(英語)	10	-	-	-	-	18	
		哲 学	3	社 会	1	地 理 史 公 民 業	2 3	-	-	-	-	6	
		歴 史	25	社 会	18	地 理 史 公 民 業	23 19	-	-	-	-	60	
		環 境 地 理	4	社 会	4	地 理 史 公 民 業	4 2	-	-	-	-	10	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	0	社 会	0	地 理 史 公 民 業	0 0	-	-	-	-	0	
	ネットワ-ク情報	ネットワ-ク情報	6	数 学	6	数 学 情 報	5 3	-	-	-	-	14	
	人 間 科	心 理 学	1	社 会	0	公 民 業	1	-	-	-	-	1	
		社 会 学	3	社 会	2	地 理 史 公 民 業	2 2	-	-	-	-	6	
	小 計			128	-	85	-	178	-	-	-	-	263
	二 部	経 済	経 済	2	社 会	2	地 理 史 公 民 業	2 2 0	-	-	-	-	6
		法	法 律	1	社 会	0	地 理 史 公 民 業	1 0 0	-	-	-	-	1
商		マ ー ケ テ ィ ン グ	2	社 会	2	地 理 史 公 民 業	2 2 1	-	-	-	-	7	
小 計			5	-	4	-	10	-	-	-	-	14	
科 目 等 履 修 生			2	国 語	0	国 語	0	-	-	-	-	0	
				外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	-	-	-	-	0	
				社 会	2	地 理 史 公 民 業 情 報	1 1 1 0	-	-	-	-	5	
小 計			2	-	2	-	3	-	-	-	-	5	
大 学 院 生			5	-	-	-	-	国 語	2	国 語	2	0	
				-	-	-	-	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	0	
				-	-	-	-	社 会	2	地 理 史 公 民 業 情 報	2 1 0	9	
小 計			5	-	-	-	-	-	4	-	5	9	
合 計			140	-	91	-	191	-	4	-	5	291	

この表は、教員免許状一括申請をした数である。

## 令和元（平成31）年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	2	0	0	1
		国 際 経 済	1	0	0	0
	法	法 律	4	0	0	0
		政 治	0	0	0	0
	経 営	経 営	1	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	3	0	0	0
		会 計	0	0	0	0
	文	日 本 語	6	2	0	1
		日 本 文 学 文 化	27	2	3	8
		英 語 英 米 文	0	0	0	1
		哲 学	1	1	0	4
		歴 史	8	1	0	23
		環 境 地 理	0	0	0	3
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	1	0	0	2
	ネットワ-ク情報	ネットワ-ク情報	3	0	0	0
人 間 科	心 理 学	0	0	0	0	
	社 会 学	4	0	0	2	
小 計			61	6	3	45
二 部	経 済	経 済	0	0	0	0
	法	法 律	1	0	1	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	0	0
小 計			1	1	1	1
科 目 等 履 修 生			2	0	3	0
大 学 院 生			0	0	0	1
合 計			64	7	7	47

データ編

Passo a Passo

## 令和元（平成31）年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海学園札幌高等学校	国語	文	日本文学文化	
	青森県	青森県立八戸北高等学校	地理史(日本)	文	歴史	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	経営	経営	
	岩手県	岩手中・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	文	歴史	
関東	茨城県	行方市立北浦中学校	社会	経済	経済	
	茨城県	常総学院高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立古河第一高等学校	商業	経営	経営	
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	会計	
	栃木県	栃木市立東陽中学校	国語	文	日本文学文化	
	群馬県	高崎商科大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	群馬県	群馬県立館林商工高等学校	商業	商	会計	
	埼玉県	埼玉県立新座総合技術高等学校	商業	経営	経営	
	埼玉県	浦和実業学園高等学校	商業	商	マーケティング	
	埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	西武台高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	東松山市立北中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立与野高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	春日部市立大沼中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	埼玉県立秩父高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	商業	商	会計	
	千葉県	旭市立第二中学校	国語	文	日本語	
	千葉県	千葉市立千城台西中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉市立真砂中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立佐原白楊高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立東金高等学校	英語	文学研究科	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	経営	経営	
	東京都	京華商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	東京都立第一商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	京華商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
東京都	東京都立芦花高等学校	国語	文	日本語		
東京都	東京都立城東高等学校	国語	文	日本語		
東京都	東京女子学園中学校・高等学校	国語	文	日本語		

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	東京都立田柄高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	江東区立大島中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	八王子市立打越中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立南平高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	多摩市立和田中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	正則高等学校	公民	文	哲	
	東京都	あきる野市立東中学校	社会	文	歴史	
	東京都	桜丘中学・高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	駒沢学園女子高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	工学院大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	白梅学園清修中高一貫部	社会	文	歴史	
	東京都	日本大学第三高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	東京都	東京都立日野高等学校	地理(日本)	文	歴史	
	東京都	淑徳巣鴨中学高等学校	公民	人間科	心理	
	神奈川県	神奈川県立弥栄高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	川崎市立南生田中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立追浜高等学校	公民	経営	経営	
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	公民	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立商工高等学校	地理歴史・公民	商	マーケティング	
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立王禅寺中央中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立舞岡高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	平塚市立大洋中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立川和中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立湘南台高等学校	国語	文	日本文学文化	
神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	国語	文	日本文学文化		
神奈川県	神奈川県立座間高等学校	国語	文	日本文学文化		

令和元（平成31）年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	神奈川県立藤沢清流高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	大和市立引地台中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立南が丘中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立金井高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	相模原市立串川中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	海老名市立柏ヶ谷中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	平塚市立大洋中学校	社会	文	環境地理	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	厚木市立睦合東中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	平塚市立江陽中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	川崎市立橘高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
甲信越	新潟県	新潟市立本丸中学校	社会	経済	国際経済	
	新潟県	新潟明訓高等学校	国語	文	日本語	
	新潟県	新潟市立葛塚中学校	社会	文	歴史	
	新潟県	柏崎市立第三中学校	社会	文	環境地理	
	新潟県	南魚沼市立大和中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	長野県	長野県大町岳陽高等学校	公民	経済	経済	
	長野県	長野県上田高等学校	地理歴史・公民	文	哲	
	長野県	長野県松本鏡ヶ崎高等学校	公民	文	哲	
	北陸	石川県	石川県立金沢北陵高等学校	国語	文	日本語
東海	岐阜県	高山市立国府中学校	社会	経済	経済	
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	常葉大学附属菊川高等学校	公民	経済	経済	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生			
				学部	学科	専攻	
東海	静岡県	藤枝明誠高等学校	地理歴史	経済	経済		
	静岡県	沼津市立金岡中学校	社会	商	マーケティング		
	静岡県	静岡市立蒲原中学校	国語	文	日本語		
	静岡県	桐陽高等学校	国語	文	日本語		
	静岡県	常葉大学附属菊川高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	吉田町立吉田中学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	静岡県立静岡城北高等学校	英語	文	英語英米文		
	静岡県	静岡県立静岡城北高等学校	地理歴史	文	歴史		
	静岡県	東海大学付属静岡翔洋高等学校	地理歴史	文	歴史		
	静岡県	静岡市立賤機中学校	社会	文	歴史		
	静岡県	島田市立島田第二中学校	社会	文	歴史		
	静岡県	裾野市立西中学校	社会	文	環境地理		
	静岡県	静岡県立静岡城北高等学校	公民	人間科	社会		
	愛知県	愛知県立中川商業高等学校	商業	商	マーケティング		
	愛知県	安城市立安城西中学校	社会	人間科	社会		
	三重県	三重県立松阪高等学校	地理歴史	文	歴史		
	近畿	大阪府	大阪市立喜連中学校	国語	文	日本文学文化	
	中国	鳥取県	米子市日吉津村中学校組合立真敷屋中学校	社会	経済	経済	
		山口県	山口県立岩国商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	四国	香川県	丸亀市立西中学校	社会	経済	国際経済	
香川県		香川県立高松商業高等学校	商業	経営	経営		
九州・沖縄	長崎県	長崎県立島原高等学校	地理歴史	経済	経済		
	長崎県	長崎県立島原高等学校	地理歴史	経済	国際経済		
	長崎県	西海学園高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報		
	宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校	商業	商	マーケティング		
	宮崎県	宮崎県立都城西高等学校	地理歴史	文	環境地理		
	宮崎県	日南学園高等学校	地理歴史	人間科	社会		

## 令和元（平成31）年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	埼玉県	熊谷市立大幡中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉市立山王中学校	社会	法	法律
	千葉県	鎌ヶ谷市立第二中学校	社会	法	政治
	東京都	町田市立つくし野中学校	社会	法	法律
	東京都	江戸川女子中学校・高等学校	社会	法	法律
	東京都	明星中学校・高等学校	公民	法	政治
	東京都	実践学園中学・高等学校	公民	法	政治
	東京都	東京成徳大学高等学校	公民	法	政治

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
甲信越	新潟県	新潟県立高田高等学校	公民	法	政治
	東海	静岡県	焼津市立大井川中学校	社会	法
四国		徳島県	徳島県立徳島北高等学校	公民	法
	九州・沖縄	福岡県	東福岡高等学校	地理歴史	法
宮崎県		日向学院中学校	社会	法	政治

## 令和元（平成31）年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	岩手県	奥州市立水沢中学校	社会	科目等履修生	
	秋田県	秋田県立大館鳳鳴高等学校	地理歴史	法	法律
関東	東京都	東京都立板橋高等学校	公民	経済	経済
	東京都	自由学園	社会	科目等履修生	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	三浦学苑高等学校	地理歴史	商	マーケティング
	神奈川県	横浜市立新羽中学校	社会	商	マーケティング
甲信越	長野県	長野女子高等学校	地理歴史	科目等履修生	
四国	高知県	高知市立高知商業高等学校	公民	経済	経済

## 令和元（平成31）年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	新宿区立中央図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立中原図書館	文	日本文学文化	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	専修大学図書館	文	英語英米文	

## 令和元（平成31）年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	岩手県	もりおか歴史文化館	人間科	社会	
	福島県	須賀川市立博物館	文	人・社会・文化	
関東	栃木県	小山市立博物館	文	歴史	
	栃木県	栃木県立博物館	文	歴史	
	群馬県	高崎市少年科学館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立歴史博物館	文	歴史	
	群馬県	かみつけの里博物館	文	環境地理	
	埼玉県	浦和くらしの博物館民家園	文	歴史	
	埼玉県	草加市立歴史民俗資料館	文	歴史	
	埼玉県	春日部市郷土資料館	文	環境地理	
	千葉県	茂原市立美術館・郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	袖ヶ浦市郷土博物館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文学研究科		歴史学
	東京都	古代オリエント博物館	商	マーケティング	
	東京都	日本民藝館	文	日本文学文化	
	東京都	町田市民文学館ことばらんど	文	日本文学文化	
	東京都	足立区立郷土博物館	文	歴史	
	東京都	野球殿堂博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
東京都	新宿区立新宿歴史博物館	文	歴史		
東京都	進化生物学研究所	文	環境地理		
東京都	渋谷区立松濤美術館	文学研究科		日本語日本文学	
東京都	進化生物学研究所	文学研究科		歴史学	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	弥生美術館・竹久夢二美術館	文学研究科		歴史学
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜こども宇宙科学館	文	哲	
	神奈川県	つる舞の里歴史資料館	文	歴史	
	神奈川県	横須賀市自然・人文博物館	文	歴史	
	神奈川県	小田原市郷土文化館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	歴史	
	神奈川県	シルク博物館	文	歴史	
	神奈川県	横浜開港資料館	文	歴史	
	神奈川県	箱根町立郷土資料館	文	環境地理	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	人・社会・文化	
	神奈川県	金沢動物園	人間科	心理	
	神奈川県	平塚市博物館	文学研究科		歴史学
	甲信越	新潟県	新潟県立万代島美術館	文	哲
新潟県		新潟県立歴史博物館	文	歴史	
新潟県		柏崎市立博物館	文	環境地理	
長野県		佐久市子ども未来館	文	哲	
長野県		松本市立博物館	文	哲	
長野県		長野市立博物館	文	歴史	
北陸	富山県	高岡市万葉歴史館	文	歴史	
東海	静岡県	静岡市立日本平動物園	経済	国際経済	
	静岡県	佐野美術館	文	歴史	
	静岡県	静岡市立登呂博物館	文	歴史	
九州・沖縄	福岡県	九州国立博物館	文	人・社会・文化	



## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成27年度	平27 経済・経済	学校法人徳心学園（横浜中学・横浜高等学校）	非常勤	社会科
	平21 法・法律	武蔵野市立桜野小学校	専任	全科
	平25 法・法律	松戸市立第六中学校	専任	英語
	平26 法・政治	横浜市立日限山中学校	専任	社会
	平27 法・政治	学校法人堀井学園（横浜創英高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	平26 経営・経営	学校法人作陽学園（岡山県作陽高等学校）	非常勤	情報
	平27 経営・経営	石川県立輪島高等学校	専任	公民
	平27 商・マーケティング	野田市立東部中学校	非常勤	社会
	平27 商・マーケティング	座間市立西中学校	非常勤	社会
	平27 商・マーケティング	岐阜県立各務原西高等学校	非常勤	情報
	平27 商・マーケティング	長野県諏訪実業高等学校	非常勤	商業
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川中島中学校	専任	国語
	平27 文・日本語	川崎市立西高津中学校	臨時の任用	国語
	平27 文・日本語	愛知県立犬山南高等学校	専任	国語
	平27 文・日本語	横浜市立上大岡小学校	専任	全科
	平27 文・日本語	神奈川県立大和高等学校	臨時の任用	国語
	平27 文・日本文学文化	内灘町立内灘中学校	専任	国語
	平27 文・日本文学文化	横浜市立南高等学校附属中学校	専任	国語
	平27 文・日本文学文化	寒川町立旭が丘中学校	専任	国語
	平27 文・日本文学文化	静岡県立三島北高等学校	専任	国語
	平27 文・日本文学文化	伊那市立高遠中学校	非常勤	国語
	平27 文・日本文学文化	山梨市立山梨南中学校	非常勤	国語
	平18 文・英語英米文	津山市立津山東中学校	専任	英語
	平22 文・英語英米文	東京都立墨田工業高等学校	臨時の任用	英語
	平24 文・英語英米文	川崎市教育委員会（小学校）	専任	全科
	平24 文・英語英米文	静岡県立浜名高等学校	専任	英語
	平26 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専任	英語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	専任	英語
	平27 文・英語英米文	埼玉県立所沢商業高等学校	期限付	英語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非常勤	英語
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非常勤	英語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立有馬高等学校	専任	英語
	平27 文・英語英米文	長野県明科高等学校	非常勤	英語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立菅高等学校	専任	英語
	平27 文・歴史	沼津市立今沢中学校	非常勤	社会
	平27 文・歴史	学校法人星野学園（星野高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平27 文・歴史	鎌倉市立玉縄中学校	臨時の任用	特別支援
	平27 文・歴史	学校法人盈進学園（東野高等学校）	非常勤	地理歴史
	平27 文・歴史	横浜市立菅田中学校	専任	社会
	平26 文・環境地理	茨城県立石岡第二高等学校	専任	地理歴史
	平27 文・環境地理	萩市立木間小・中学校 長門市立三隅中学校	非常勤	社会
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立横浜栄高等学校	専任	情報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立上石神井中学校 練馬区立大泉第二中学校	非常勤	数学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非常勤	数学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立八潮南高等学校	非常勤	数学
平25 院経営・修士	学校法人鷗友学園（鷗友学園女子高等学校）	専任	情報	
平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	専任	英語	
平28 経済・経済	市川市立東国分中学校	少人数学習等担当補助教員	社会	
平28 経済・経済	神奈川県立深沢高等学校	非常勤	地理歴史	
平21 法・法律	藤沢市立湘南台中学校	専任	社会	
平26 法・法律	むつ市立大畑中学校	非常勤	社会	
平28 法・法律	学校法人旭川宝田学園（旭川明成高等学校）	専任	地理歴史・公民	
平28 法・法律	野田市立東部中学校	専任	社会	
平26 法・政治	川崎市立橘中学校	専任	社会	
平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	非常勤	社会	
平26 商・マーケティング	綾瀬市立落合小学校	専任	全科	
平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	期限付	商業	
平28 商・マーケティング	海老名市立柏ヶ谷中学校	非常勤	社会	
平28 商・マーケティング	学校法人矢谷学園（鳥取城北高等学校）	非常勤	商業	
平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	専任	国語	
平27 文・日本語	神奈川県立鎌倉高等学校	専任	国語	
平28 文・日本語	大和市立つきみ野中学校	臨時の任用	国語	
平28 文・日本語	学校法人菅生学園（東海大学菅生高等学校）	非常勤	国語	
平28 文・日本語	富士宮市立富士宮第四中学校	非常勤	国語	
平28 文・日本語	上田市立塩田中学校	非常勤	国語	
平28 文・日本語	神奈川県立保土ヶ谷高等学校	期限付	国語	
平28 文・日本語	北区立堀船中学校	期限付	国語	
平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	国語	
平28 文・日本文学文化	東京都立杉並工業高等学校	専任	国語	
平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	国語・書道	
平22 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	専任	英語	
平26 文・英語英米文	大村市立西大村中学校	臨時の任用	英語	
平28 文・英語英米文	神奈川県立厚木清南高等学校	期限付	英語	
平28 文・英語英米文	日本工業大学駒場中学校・高等学校	非常勤	英語	

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成28年度	平28 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非常勤	英語
	平28 文・英語英米文	浦添市立神森中学校	専任	英語
	平28 文・英語英米文	荒川区立諏訪台中学校	期限付	英語
	平28 文・哲	学校法人東海山形学園（東海大学山形高等学校）	非常勤	地理歴史
	平26 文・歴史	千葉県立船橋夏見特別支援学校	臨時的任用	特別支援
	平26 文・歴史	神奈川県立麻生総合高等学校	専任	地理歴史
	平27 文・歴史	静岡県教育委員会	専任	社会
	平27 文・歴史	葉山町立南郷中学校	専任	社会
	平28 文・歴史	学校法人沼津学園（桐陽高等学校）	非常勤	地理歴史
	平28 文・歴史	神奈川県立相模原高等学校	専任	地理歴史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立宮郷中学校	臨時的任用	社会
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立綾瀬西高等学校	専任	情報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立飯能高等学校	専任	数学
	平26 人間科・社会	港区立白金小学校	専任	全科
平成29年度	平28 人間科・社会	富士市立岩松中学校	専任	社会
	平28 院文・修士	学校法人駿台学園（駿台学園中学・高等学校）	常勤	国語
	平28 院文・修士	神奈川県立大橋高等学校	専任	英語
	平28 院文・修士	学校法人成立学園（成立学園中学・高等学校）	常勤	英語
	平23 経済・経済	川崎市教育委員会	専任	全科
	平23 経済・経済	東京都教育委員会	期限付	全科
	平27 経済・経済	福井県立武生商業高等学校	専任	地理歴史
	平28 経済・経済	市川市立第五中学校	専任	社会
	平28 経済・経済	調布市立第三中学校	専任	社会
	平28 経済・経済	神奈川県立商工高等学校	期限付	地理歴史・公民
	平29 経済・経済	相模原市立東林中学校	専任	社会
	平29 経済・経済	藤沢市立湘南台中学校	臨時的任用	社会
	平29 経済・経済	学校法人上野塾（東京実業高等学校）	非常勤	商業
	平22 経済・国際経済	北区立桐ヶ丘中学校	専任	社会
平成29年度	平25 法・法律	足立区立東洲江小学校	専任	全科
	平26 法・法律	川崎市教育委員会	専任	社会
	平22 法・政治	学校法人八洲学園（福岡女子商業高等学校）	常勤	商業
	平29 法・政治	静岡県立御殿場高等学校	専任	公民
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	専任	社会
	平29 経営・経営	岐阜市立岐阜商業高等学校	常勤	商業
	平28 商・マーケティング	学校法人国際学園（星槎国際高等学校（湘南学習センター））	常勤	情報
	平29 商・マーケティング	学校法人調布学園（田園調布学園中等部・高等部）	専任	情報
	平29 商・マーケティング	学校法人三島学園（東北生活文化大学高等学校）	常勤	商業
	平29 商・会計	東京都立千早高等学校	専任	商業
	平29 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	専任	商業
	平29 商・会計	茨城県立磯原郷英高等学校	常勤	商業
	平23 文・日本語日本文	神奈川県教育委員会	専任	全科
	平29 文・日本語	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常勤	国語
平成29年度	平29 文・日本語	船橋市立葛飾中学校	常勤	国語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	期限付	国語
	平29 文・日本語	学校法人松薫学園（焼津高等学校）	常勤	国語
	平29 文・日本語	神奈川県立磯子高等学校	臨時的任用	国語
	平29 文・日本語	南部町立南部中学校	期間採用	国語
	平26 文・日本文学文化	菊池市立隈府小学校	専任	全科
	平29 文・日本文学文化	神奈川県立新羽高等学校	臨時的任用	国語
	平29 文・日本文学文化	学校法人大谷学園（横浜隼人中学・高等学校）	非常勤	国語
	平29 文・日本文学文化	長野県伊那北高等学校	専任	国語
	平29 文・日本文学文化	神奈川県立白山高等学校	専任	国語
	平29 文・日本文学文化	長野県諏訪実業高等学校	専任	国語
	平25 文・英語英米文	神奈川県教育委員会	専任	英語
	平27 文・英語英米文	さいたま市立原山中学校	専任	英語
	平27 文・英語英米文	東京都立葛飾商業高等学校	専任	英語
平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	専任	英語	
平成29年度	平28 文・英語英米文	神奈川県立二宮高等学校	専任	英語
	平28 文・英語英米文	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校）	常勤	英語
	平29 文・英語英米文	川崎市立高津中学校	臨時的任用	英語
	平29 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	臨時的任用	英語
	平29 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	非常勤	英語
	平29 文・哲	神奈川県立相模原総合高等学校	専任	公民
	平26 文・歴史	千葉県立大網高等学校	常勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	小千谷市立総合支援学校	常勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属浦安高等学校・中等部）	特任	社会
	平29 文・歴史	神奈川県立平塚湘風高等学校	専任	地理歴史
	平29 文・歴史	藤沢市立大庭中学校	臨時的任用	特別支援
	平29 文・歴史	学校法人聖パウロ学園（聖パウロ学園高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人常葉学園（常葉学園橘中学校・高等学校）	常勤	社会・地理歴史・公民
平29 文・歴史	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非常勤	地理歴史・公民	
平成29年度	平29 文・歴史	神奈川県立伊勢原高等学校	臨時的任用	地理歴史
	平29 文・環境地理	美郷町立西郷中学校	常勤	社会
	平29 文・環境地理	相模原市立大沢中学校	常勤	社会・特別支援
	平29 文・環境地理	江東区立数矢小学校	専任	全科

データ編

Passo a Passo

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成29年度	平29 文・人文・ジャーナリズム	山梨県立甲府昭和高等学校	専任	公民学
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園(玉川学園中学部・高等部)	専任	数学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	茨城県立真壁高等学校	非常勤	数学
	平29 院文・修士	静岡県立御殿場南高等学校	専任	国語
	平29 院文・修士	神奈川県立鶴見高等学校	臨時的任用	英語
平成30年度	平25 経済・経済	練馬区立中村小学校	専任	全科
	平28 経済・経済	横浜市立小坪小学校	専任	全科
	平28 経済・経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	専任	地理歴史
	平30 経済・経済	藤沢市立秋葉台中学校	非常勤	社会
	平30 経済・経済	北九州市立木屋瀬小学校	非常勤	全科
	平30 経済・経済	学校法人昭和第一学園(昭和第一学園高等学校)	非常勤	地理歴史
	平26 法・法律	学校法人角川ドワンゴ学園(N高等学校)	専任	地理歴史・公民
	平26 法・法律	木更津市立馬来田小学校	専任	全科
	平27 法・法律	山梨大学附属小学校	専任	特別支援
	平28 法・政治	松戸市立第一中学校	専任	社会
	平30 法・政治	東京都立新宿山吹高等学校	専任	公民
	平30 法・政治	神奈川県立川崎高等学校	専任	地理歴史
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	専任	社会
	平30 経営・経営	岐阜県立岐阜城北高等学校	常勤	商業
	平30 経営・経営	神奈川県立小田原東高等学校	臨時的任用	商業
	平30 経営・経営	清川村立緑中学校	専任	社会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	臨時的任用	全科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	専任	商業
	平29 商・マーケティング	学校法人上野塾(東京実業高等学校) 大田区立志茂田中学校 目黒区立東山中学校	非常勤	社会
	平30 商・マーケティング	学校法人京華学園(京華商業高等学校)	非常勤	商業
	平30 商・マーケティング	学校法人安部学院(安部学院高等学校)	専任	商業
	平30 商・会計	茨城県立土浦第三高等学校	専任	商業
	平30 商・会計	岐阜県立岐阜各務野高等学校	常勤	商業
	平22 文・日本語日本文	東京都教育委員会	専任	国語
	平27 文・日本語	新島村立式根島小学校	専任	全科
	平28 文・日本語	綾瀬市立北の台中学校	専任	国語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	学校法人高松学園(飯田女子高等学校)	非常勤	国語
平30 文・日本語	相模原市立東林中学校	非常勤	国語	
平30 文・日本語	学校法人武蔵野学院(武蔵野中学高等学校)	常勤	国語	
平30 文・日本語	神奈川県立伊勢原高等学校	期限付任用	国語	
平30 文・日本語	学校法人駿台甲府学園(駿台甲府学園中学校・高等学校)	期限付任用	国語	
平30 文・日本語	松田町立松田中学校	専任	国語	
平30 文・日本語	千葉県立松戸馬橋高等学校	期限付任用	国語	
平30 文・日本語	多摩市立青陵中学校	臨時的任用	国語	
平30 文・日本文学文化	学校法人横浜学院(横浜女学院中学・高等学校)	常勤	国語	
平30 文・日本文学文化	埼玉県立小川高等学校	常勤	国語	
平28 文・英語英米文	川崎市立大師中学校	専任	英語	
平30 文・英語英米文	学校法人明星学園(浦和学院高等学校)	常勤	英語	
平30 文・英語英米文	横浜市立鶴見中学校	臨時的任用	英語	
平30 文・英語英米文	大田区立蓮沼中学校	臨時的任用	英語	
平30 文・英語英米文	横浜市立田奈中学校	臨時的任用	英語	
平成31年度	平30 文・英語英米文	学校法人タイケン国際学園(日本ウェルネス高等学校・東京キャンパス)	専任	英語
	平30 文・英語英米文	市原市立ちはら台西中学校	専任	英語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立綾瀬高等学校	専任	英語
	平28 文・哲	新発田市立外ヶ輪小学校	専任	全科
	平28 文・哲	新潟県立高田特別支援学校	専任	社会
	平30 文・哲	常総市立菅生小学校	非常勤	全科
	平28 文・歴史	学校法人日本体育大学(日本体育大学柏高等学校)	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	千葉県立八千代西高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	学校法人富士学園(静岡県富士見高等学校)	非常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	学校法人世田谷学園(世田谷学園中学校・高等学校)	非常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	神奈川県立七里万浜高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	東京文理学院高等部	非常勤	地理歴史・公民
平成32年度	平30 文・歴史	栃木県立鹿沼高等学校 栃木県立鹿沼南高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	群馬県立館林商工高等学校	常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	江戸川区立瑞江中学校	専任	社会
	平30 文・歴史	愛川町立愛川中原中学校	専任	社会
	平30 文・環境地理	糸魚川市立糸魚川小学校	常勤	全科
	平27 文・人文ジャーナリズム	川崎市立田島支援学校 桜校	専任	特別支援
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都教育委員会	専任	数学
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	西伊豆町立西伊豆中学校	臨時的任用	数学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉学園中学校	専任	数学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大妻学院(大妻多摩中学高等学校)	非常勤	数学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	山梨県教育委員会	期限付任用	数学
	平30 人間科・心理	香取市立栗源中学校	常勤	社会
	平30 院文・修士	川崎市立京町中学校	非常勤	国語
	平30 院文・修士	福島県立磐城高等学校	非常勤	英語
	平29 院文・博士	学校法人成蹊学園(成蹊高等学校)	非常勤	地理歴史

## 主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和元年度	平28 経済・経済	神奈川県立生田高等学校	専任	地理歴史
	平30 経済・経済	学校法人緑丘学園（水戸英宏小学校）	常勤	全科
	平30 経済・経済	逗子市立沼間中学校	専任	社会
	平31 経済・経済	神奈川県立釜利谷高等学校	非常勤	公民
	平31 経済・経済	藤沢市立白浜養護学校	非常勤	特別支援
	平31 経済・経済	江東区立元加賀小学校	臨時的任用	全科
	平28 経済・国際経済	学校法人小野学園（小野学園小学校）	専任	全科
	平31 経済・国際経済	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専任	社会・地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	学校法人いわき秀英学園（いわき秀英中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平17 法・法律	豊島区立南池袋小学校	専任	全科
	平27 法・法律	埼玉県立秩父高等学校	専任	公民
	平28 法・法律	船橋市立丸山小学校	専任	全科
	平29 法・法律	江戸川区立小岩第五中学校	専任	英語
	平31 法・法律	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平31 法・法律	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	地理歴史
	平31 法・法律	神奈川県立大船高等学校	期限付	地理歴史
	平31 法・法律	中野区立江原小学校	専任	全科
	平31 経営・経営	学校法人大分高等学校（大分高等学校）	非常勤	商業
	平31 経営・経営	中津川市立神坂中学校	専任	社会
	平22 商・マーケティング	山口県立宇部商業高等学校	専任	商業
	平27 商・マーケティング	市原市立若葉中学校	専任	社会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	専任	全科
	平29 商・マーケティング	大田区立志茂田中学校	非常勤	社会
	平30 商・マーケティング	大島町立第二中学校	専任	体育
	平31 商・マーケティング	茨城県立石岡商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	川崎市立白鳥中学校	非常勤	社会
	平31 商・マーケティング	岐阜県立土岐商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	学校法人玉名学園（専修大学玉名高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専任	商業
	平24 商・会計	東京都立五日市高等学校	専任	商業
	平31 商・会計	高知県立清水高等学校	常勤	商業
	平28 文・日本語	大和市立引地台中学校	専任	国語
	平29 文・日本語	神奈川県立横浜明朋高等学校	専任	国語
	平29 文・日本語	南アルプス市立白根御勅使中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	町田市立小山中学校	専任	国語
	平31 文・日本語	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常勤	国語
	平31 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専任	国語
	平31 文・日本語	学校法人白鷗女子学院（白鷗女子高等学校）	常勤	国語
	平31 文・日本語	神奈川県立横浜桜陽高等学校	専任	国語
	平31 文・日本語	埼玉県立朝霞高等学校（定時制）	専任	国語
	平28 文・日本文学文化	川崎市立白鳥中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人瀧野川女子学園（瀧野川女子学園中学高等学校）	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非常勤	国語
	平31 文・日本文学文化	葉山町立葉山中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	常総市立水海道西中学校	常勤	国語
平29 文・英語英米文	大田区立清水窪小学校	専任	全科	
平30 文・英語英米文	東京都教育委員会	専任	英語	
平30 文・英語英米文	神奈川県立大井高等学校	専任	英語	
平31 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語	
平31 文・英語英米文	神奈川県立弥栄高等学校	臨時的任用	英語	
平31 文・英語英米文	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	常勤（期限付）	英語	
平31 文・英語英米文	学校法人東駿学園（御殿場西高等学校）	常勤	英語	
平31 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専任	英語	
平30 文・哲	板橋区立富士見台小学校	専任	全科	
平30 文・哲	坂東市立岩井第二小学校	専任	全科	
平31 文・哲	渋谷区立千駄谷小学校	専任	全科	
平31 文・哲	学校法人常磐大学（智学館中等教育学校）	常勤	社会・地理歴史・公民	
平31 文・哲	横浜市立浦島丘中学校	専任	社会	
平29 文・歴史	千葉県立都賀中学校	専任	社会	
平30 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校） 学校法人戸坂学園（三田国際学園中学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民	
平30 文・歴史	千葉県立市川高等学校	非常勤	公民	
平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	期限付	特別支援	
平31 文・歴史	横浜市立釜利谷中学校	専任	社会	
平31 文・歴史	千葉県立津田沼高等学校	非常勤	地理歴史・公民	
平31 文・歴史	射水市立新湊中学校	専任	社会	
平31 文・歴史	豊橋市立高豊中学校	非常勤	社会	
平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	島田市立金谷中学校	専任	数学科	
平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	臨時的任用	全科	
平31 院文・修士	学校法人芝浦工業大学（芝浦工業大学柏中学校・高等学校）	常勤	国語	
平31 院文・修士	学校法人光明学園（相模原高等学校）	専任	英語	

## 司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学付属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	（株）雄松堂書店
武蔵大学図書館	青山学院女子短期大学図書館
東京大学法学部図書館	国土館大学鶴川図書館
日外アソシエーツ（株）	追手門学院大学附属図書館
見附市立図書館（新潟県）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングcommons	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
女子栄養大学図書館	神奈川県立相模原総合高等学校
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	横須賀市立中央図書館
東京医科大学図書館	（株）三省堂書店
杉並区中央図書館（東京都）	神奈川県立図書館
横浜市立図書館	江東区立亀戸図書館
キハラ（株）	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
専修大学図書館	法政大学多摩図書館

## 学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
日野市郷土資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国土館大学国土館史資料室
島根県教育委員会文化財課	

令和元（平成31）年度 資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程 学校司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次	行事	対象 年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月履修科目登録および履修修正（全学年）							
	中旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会	3 3・4						
5月	上旬	教育実習事前ガイダンス	4						
	中旬	教育実習 (5月～11月)	4					館務実習事前ガイダンス	3・4
		下旬	介護等の体験開始 (5月下旬～3月上旬)	3・4					博物館見学実習 博物館実習（館務実習） (5月～1月)
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス	3	図書館実習 事前ガイダンス	3・4	司書教諭修了証書 申請ガイダンス (3年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者)	4		
	下旬	教育実習内諾書の提出	3						
		教員免許状一括申請 ガイダンス	4						
7月	下旬	前期試験（全学年）							
8月	上旬	夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前期追試験（全学年）							
				図書館実習 (8月～11月)	3・4				
9月	下旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス (4年次で司書教諭の科目を履修した者)	4	館務実習登録ガイダンス (第1回)	2・3
10月	上旬	教職公開講座	1～4						
11月	中旬							館務実習登録ガイダンス (第2回)	2・3
	下旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中旬			図書館実習 報告会	1～4				
1月	上旬			司書課程就職 (進路)懇談会	1～4				
	中旬	後期試験（全学年）							
	下旬	後期追試験（全学年）							
2月	中旬			学校司書課程講演 会・受講説明会	1～4			館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4						

## 令和元（平成31）年度 教職相談実施結果

### 1. 実施期間

平成31年4月～令和2年1月

### 2. 実施日・担当者

校舎	担当者	相談日（4月～8月）		相談日（9月～1月）	
		生田	齋藤 博志	月曜日 12:25～14:25 木曜日 15:30～16:30	月曜日 12:00～14:00 木曜日 14:30～15:30
	嶺井 正也	月曜日 10:45～13:05	火曜日 12:30～14:30 火曜日 10:30～15:00（1月下旬～2月）		
神田	齋藤 博志	木曜日 11:00～14:00	木曜日 11:00～13:00		

### 3. 実施結果

(1) 齋藤 博志 商学部特任教授 生田・神田校舎実施結果

①月別曜日別相談者数（生田・神田校舎）

校舎	曜日\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
生田	月曜日	13	7	8	13	—	8	8	4	20	1	82
	木曜日	10	5	3	5	—	1	8	3	6	7	48
神田	木曜日	0	0	0	4	—	0	1	0	7	0	12
合計		23	12	11	22	—	9	17	7	33	8	142

②学部学科別相談者数（生田・神田校舎）

学部	経済		法		経営		商		文						ネットワーキング		人間科		二部	合計
	経済	国際経済	法律	政治	経営	マーケティング	会計	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲	歴史	環境地理	人文ジャーナリズム	ネットワーキング	心理	社会			
人数	19 (10)	2 (2)	4 (3)	4 (4)	2 (2)	14 (3)	0	3 (1)	0	32 (7)	0	44 (17)	1 (1)	0	8 (2)	0	5 (2)	4 (2)	142 (56)	

( )内の人数は実数

③相談者学年（生田・神田校舎）

学年	1年	2年	3年	4年	合計
人数	2	30	52	58	142

④相談内容（生田・神田校舎）

一次試験対策	論文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合計
17	69	21	12	14	8	1	2	32	176

⑤その他の主な内容

・保健体育の教師になるには・私学教員になるには・ボランティア活動を行った方が良いのか・就活と教採は両立できるか・ボランティア先での対応について・指導案の添削・面接での嫌な質問への対応・デジタル教科書の採択について・教採予備校の指導に疑問がある・社会科教育について・教員を目指すべからず迷っている・教職課程を履修していないが、今後教師を目指すとしたらどうしたらよいか・学校や教師の現場現状について・教員採用試験について・教採不合格となったが、卒業後、講師となるにはどうしたらよいか・採用候補者申告カードの書き方について・教採に向けての準備はどうしたらよいか・一次試験に向けての取り組みはどうすればよいか など

⑥相談日数（生田・神田校舎）

校舎	曜日\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
生田	月曜日	2	4	4	5	—	2	4	3	4	2	30
	木曜日	3	4	4	4	—	1	4	3	3	3	29
神田	木曜日	3	4	4	4	—	1	4	3	3	3	29
合計		8	12	12	13	—	4	12	9	10	8	88

(2) 嶺井 正也 専修大学名誉教授 生田校舎実施結果 ※福山文子経営学部講師と協働

①相談者数

4月～7月 各回 平均6名  
 在学生：6名（経済学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科4年生）  
 大学院生：2名（文学研究科）  
 卒業生：2名  
 8・9月 在学生：2名  
 10月～1月中旬 各回 平均4名  
 在学生：経済学科、日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、社会学科  
 1月下旬～2月 各回 平均8名  
 在学生：経済学科、日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、社会学科  
 ※その他、インターネットで相談対応3名

②相談内容

4月～7月 一次・二次試験対策  
 8・9月 大学院進学（インターネット）  
 10月～1月中旬 教育法規を中心とした教職教養  
 1月下旬～2月 教職教養、小論文、集団面接・討論

③相談日数

4月～7月 計12回  
 8・9月 計4回  
 10月～1月中旬 計14回  
 1月下旬～2月 計9回（うち3回はインターネット）

## 令和元（平成31）年度 教職相談ミニ自主講座実施結果

### 1. 実施期間

令和元年9月30日（月）～令和2年1月20日（月）

### 2. 実施日・場所・担当者

月曜日 全14回 13:00～14:00（60分間） 生田校舎  
 担当者：齋藤 博志 商学部特任教授

### 3. 参加者数

(1) 学年別人数 12名（延べ38名）

学年	1年	2年	3年	4年	合計
人数	0	2	10	0	12

(2) 参加者学部学科

経済学部経済学科、法学部法律学科、商学部マーケティング学科、文学部英語英米文学科、文学部歴史学科、人間科学部社会学科、二部経済学部経済学科

### 4. 講座内容

第1回 論文の書き方と論文構造  
 第2回 問題把握と全体構想・論文の構造化  
 第3回 序論の書き方と柱の立て方  
 第4回 価値論と事例  
 第5回 方策とまとめ  
 第6回～第14回 実践編

## 令和元（平成31）年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第1回・2回

1. 実施日 第1回 令和元年8月3日（土） 10:00～15:30  
第2回 令和元年8月6日（火） 10:00～15:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 422教室・423教室・424教室・425教室
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者（卒業生も受講可）
4. 担当講師 【第1回】令和元年8月3日（土） 【第2回】令和元年8月6日（火）  
①齋藤 博志 商学部特任教授 ①齋藤 博志 商学部特任教授  
②神山 安弘 文学部客員教授 ②神山 安弘 文学部客員教授  
③角田真紀子 経済学部講師 ③福山 文子 経営学部講師  
④肝付 俊朗 先生 ④望月 俊男 ネットワーク情報学部准教授  
本学卒業生（昭和60年 法学部法律学科卒）  
町田市立山崎中学校校長
5. 内容 (1) 面接票、指導案等の作成指導  
(2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参  
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 第1回 令和元年8月3日（土） 26名（内卒業生3名）  
第2回 令和元年8月6日（火） 22名（内卒業生3名）
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第3回

1. 実施日 令和元年8月8日（木） 11:00～16:00
2. 実施場所 専修大学サテライトキャンパス
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 ①長船 孝明 経済学部兼任講師（昭和53年 商学部会計学科卒）  
（元東京都立荒川商業高等学校校長）  
②矢吹 芳洋 経済学部教授  
③中野 育男 商学部教授
5. 内容 (1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等）  
(2) 個別指導（主に個人面談）
6. 参加者 14名（内卒業生1名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

### ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第4回

1. 実施日 令和元年8月16日（金） 11:00～17:00
2. 実施場所 専修大学サテライトキャンパス
3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者（卒業生も受講可）
4. 担当講師 ①齋藤 博志 商学部特任教授  
②神山 安弘 文学部客員教授  
③福山 文子 経営学部講師  
④肝付 俊朗 先生 本学卒業生（昭和60年 法学部法律学科卒）  
町田市立山崎中学校校長
5. 内容 (1) 個人面接  
(2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参  
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 15名（内卒業生1名）
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

### ・教員採用試験対策特別講義 第1回

1. 実施日 令和元年7月13日（土） 10:00～12:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次～4年次（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 伊藤 雅夫 先生 本学卒業生（昭和54年 経済学部経済学科卒）  
江東区教育委員会ブリッジスクール（元江東区立第二砂町中学校校長）
5. 内容 (1) 自己紹介および現在の学校現場について  
(2) 求められる教師像（役職の立場から思うこと）  
(3) 人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際
6. 参加者 29名（内卒業生0名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

### ・教員採用試験対策特別講義 第2回

1. 実施日 令和元年11月30日（土） 13:30～16:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次～4年次（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 東京アカデミー講師  
片貝 哲 氏（東京アカデミー町田校 事務局次長）  
平成31（2019）年度採用試験二次試験合格者  
大川 美咲（神奈川県教育委員会 高等学校国語 文学部日本文学文化学科4年）  
野口 咲笑（東京都教育委員会 中学・高等学校英語 文学部英語英米文学科4年）
5. 内容 (1) 東京アカデミー講師から各教育委員会の採用試験の概要説明  
(2) 平成31（2019）年度採用試験二次試験合格者の体験談および質疑応答（司会：高橋 龍夫 文学部教授）
6. 参加者 15名（内卒業生0名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会



## 令和元（平成31）年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 令和元年 10月5日（土）
2. 時間 13時00分～17時10分
3. 場所 専修大学生田校舎 1号館
4. 参加人数 I部：採用試験体験談① 86名 採用試験体験談② 88名 II部：195名
5. 内容

（1）採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ①－今の教育現場について－（専修大学OB・OG）

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
永井 清 花 先生 (平成29年3月 文学部 日本文学文化学科 卒業)	神奈川県立白山高等学校	国 語
横瀬 喬 哉 先生 (平成17年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	東京都立広尾高等学校	英 語
満田 美 里 先生 (平成29年3月 文学部 歴史学科 卒業)	千葉市立都賀中学校	社 会
南雲 陽 平 先生 (平成30年3月 法学部 政治学科 卒業)	神奈川県立川崎高等学校	地歴・公民
金杉 謙 先生 (平成31年3月 商学部 マーケティング学科 卒業)	安部学院高等学校	商 業
中村 友里絵 先生 (平成25年3月 経営学研究科 経営学専攻 修了)	鷗友学園女子中学高等学校	情 報
高須 悠 先生 (平成28年3月 法学部 法律学科 卒業)	船橋市立丸山小学校	小 学 校
中野 真理子 先生 (平成31年3月 法学部 法律学科 卒業)	中野区立江原小学校	

（2）優れた教育実践に学ぶ②－求められる教師像－

講 師	横浜市立横浜吉田中学校長 金澤 眞 澄 先生(昭和57年3月 文学部 人文学科 卒業)
-----	--

（3）タイムテーブル

	時 間	内 容	場 所
I 部	13:00～13:05	全体スケジュールの確認	該当教室
	13:05～13:25 (20分)	採用試験体験談① 国 語 永井 清 花 先生 社 会 満田 美 里 先生 商 業 金杉 謙 先生 小 学 校 中野 真理子 先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:25～13:35	休憩及び他の教科への移動	
	13:35～13:55 (20分)	採用試験体験談② 英 語 横瀬 喬 哉 先生 地歴・公民 南雲 陽 平 先生 情報・数学 中村 友里絵 先生 小 学 校 高須 悠 先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:55～14:00	出席カードの回収及び114教室へ移動	該当教室
II 部	14:00～14:15	オリエンテーション	114教室
	14:15～14:55 (40分)	優れた教育実践に学ぶ① －今の教育現場について－ 国 語 永井 清 花 先生 英 語 横瀬 喬 哉 先生 社会・小学校 満田 美 里 先生 地歴・公民・小教 南雲 陽 平 先生 商 業 金杉 謙 先生 情報・数学 中村 友里絵 先生	121教室 117教室 124教室 125教室 122教室 123教室
	14:55～15:05	質問用紙の提出	該当教室
	15:05～15:35 (30分)	－現職教員とのディスカッション－ 国 語 永井 清 花 先生 英 語 横瀬 喬 哉 先生 社会・小学校 満田 美 里 先生 地歴・公民・小教 南雲 陽 平 先生 商 業 金杉 謙 先生 情報・数学 中村 友里絵 先生	121教室 117教室 124教室 125教室 122教室 123教室
	15:35～15:50	休憩及び移動	
	15:50～16:50 (60分)	優れた教育実践に学ぶ② －求められる教師像－ 横浜市立横浜吉田中学校 校 長 金澤 眞 澄 先生	114教室
	16:50～17:10	まとめ	

## 令和元（平成31）年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日：令和元年12月20日（金）

時間：16：30～17：30

場所：専修大学生田校舎 ゼミ101C教室（10号館）

参加者数：3名

内容：今年度、新宿区立中央図書館、川崎市立中原図書館、専修大学図書館で図書館実習をした3名の学生が、実習館の概要、実習で経験した業務の概要、図書館実習の感想などについて報告した。各報告の後に、実習生と教員で質疑応答や意見交換を行った。実習生からは「大学図書館と公共図書館の違いが理解できた」「公共図書館でも自治体が違うと実施しているサービスや考え方が異なることを実感した」という感想が聞かれ、充実した時間となった。（瀬山紗菜さんの川崎市立中原図書館での実習については、「図書館実習を終えて」に記されている。）

## 令和元（平成31）年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開催日：令和2年1月7日（火）

時間：16：30～18：00

場所：専修大学生田校舎 ゼミ101G教室（10号館）

ゲスト：関口真弓さん（ドルトン東京学園中等部・高等部、本学文学部卒業生）

参加者数：1名

内容：今年度から学校図書館（ラーニング・コモンズ）で勤務されている関口真弓さんに、様々な写真やWebサイトを見せていただきながら、学校の説明や具体的な業務の内容についてお話しいただいた。併せて、小学校で司書教諭や学校司書として勤務されたご経験なども伺った。勤務先の他の先生方とのコミュニケーションの取り方や、大学時代にどのようなことをしておけば良かったかなどが話題になり、終始和やかな懇談が行われた。現職者のお話を伺う有意義な機会であるため、参加者数が増えるように次年度に向けて考えたい。

## 令和元（平成31）年度 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開催日：令和2年2月25日（火）

時間：18：30～20：00

場所：専修大学神田校舎102教室

講師：別府さおり氏（東京成徳大学准教授）

参加者数：17名

内容：講演の前に、学校司書課程担当教員から「科目等履修生制度」に関する、カリキュラム・修了証明書・みなし科目等についての説明を行った。続いて講師の別府さおり先生から、「学校司書に知ってほしい特別支援教育のこと」と題して、発達障害に示される状態像等を中心として、学校図書館司書がどのように考えながら支援をしていくかを、具体的な事例とともにお話しいただいた。先生のととても穏やかなわかりやすい説明により、参加者がそれぞれに多くの学びを得た、大変有意義な講演会であった。



司書課程図書館実習報告会



司書課程就職（進路）懇談会



学校司書課程講演会・受講説明会

## 学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告

生田校舎2号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習授業の一環として、平成29年度より実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和元年度も下記の日程で行なわれ、授業の復習も含めた実践的な実習として、良い学びの機会となった。

### <平成29年度>

前期：7月24日（月）～7月27日（木） 昼休み

テーマ：「前期の授業で学んだこと」

後期：12月18日（月）～12月21日（木） 昼休み

テーマ：「博物館実習」



令和元年度前期：公開展示

### <平成30年度>

前期：7月23日（月）～7月26日（木） 昼休み

テーマ：「前期の授業で学んだこと」

後期：12月17日（月）～20日（木） 昼休み

（第1回学芸員課程セミナー12月15日（土）の日にも公開）

テーマ：「拓本（たくほん）」

### <令和元（平成31）年度>

前期：7月22日（月）～7月25日（木） 12:00～14:00

テーマ：「前期の授業で学んだこと」

展示対応学生30名（期間内の延べ人数）／見学者：50名

後期：12月16日（月）～12月19日（木） 12:00～14:00

テーマ：「学芸員課程を紹介します！」

展示対応学生21名（期間内の延べ人数）／見学者：67名



令和元年度後期：展示プランの話し合い

## 令和元（平成31）年度 資格課程活動報告

日付	事項	場所	参加者
平成31年 4月18日	「2020年度 私学教員適性検査」大学教職就職担当者説明会	アルカディア市ヶ谷	職員1名
令和元年 5月11日 ～12日	令和元年度 全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	國學院大學	職員1名
5月12日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会2019年度定期総会・東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会及び情報交換会	東京都市大学	教員1名 職員3名
5月25日 ～26日	全国私立大学教職課程協会2019年度定時社員総会（定期総会）・第39回研究大会	大阪ガーデンパレス・近畿大学	教員1名 職員1名
6月7日	令和元年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議	神奈川県平塚合同庁舎	職員1名
6月15日 ～16日	令和元年度 全国大学博物館学講座協議会 全国大会	法政大学	教員1名 職員1名
6月20日	令和元年度 第1回横浜市大学連携・協働協議会	横浜市教育委員会花咲研修室	教員2名 職員3名
6月29日	令和元年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会 研究会	実践女子大学	職員5名
7月6日	令和元年度 資格課程懇談会	専修大学	教員22名 (内兼任13名) 職員6名
7月14日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会2019年研究部総会・第1回研究部会・研究懇談会および情報交換会	学習院大学	教員1名
9月21日	大学教務実践研究会 教務系事務部門リーダー講習会	国士舘大学	職員1名
10月12日 ～13日	2019年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会大会 (委員会・総会および大会は、台風19号の接近に伴い延期・中止)	國學院大学栃木短期大学	—
10月26日	令和元年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会 総会	成蹊大学	職員5名
11月2日	全国私立大学教職課程協会2019年度研究交流集会	京都テルサ	職員1名
12月5日	令和元年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	駒澤大学	職員1名
12月7日	令和元年度 大学教務実践研究会第7回大会	中京大学	職員1名
12月17日	令和元年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会	学習院大学	職員2名
12月20日	「教員の資質・能力の向上」に係る取組発表会 (横浜市大学連携・協働協議会)	横浜市教育委員会花咲研修室	教員1名 職員3名
12月21日	京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2019年度第4回教員免許事務勉強会	同志社大学	職員1名
令和2年 2月22日	令和元年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	神奈川工科大学	教員1名 職員3名

令和元（平成31）年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	公民科教育研究1・2
経済学部	講師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法学部	准教授	加藤 雄三	法律学a・b
経営学部	講師	福山 文子	公教育制度論
商学部	教授	中野 育男	商業科教育研究1・2
商学部	特任教授	齋藤 博志	教職実践演習
文学部	教授	今井 上	日本文学通史a
文学部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論b
文学部	教授	大谷 正	日本史a・b
文学部	教授	片桐 一彦	英語科教育研究1・2
文学部	教授	苅谷 愛彦	自然地理学概論a
文学部	教授	斎藤 達哉	日本語学入門a・b
文学部	教授	高橋 龍夫	国語科教育研究1
文学部	教授	田邊 祐司	英語科教育研究3・4
文学部	教授	鳶尾 和宏	国語科教育研究2
文学部	教授	貫 成人	哲学a・b
文学部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義a・b
文学部	教授	福島 義和	地理学a・b
文学部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論a
文学部	教授	山口 政幸	日本文学通史b
文学部	教授	米村みゆき	日本文学概論b
文学部	准教授	赤坂 郁美	自然地理学概論b
文学部	准教授	松尾 治	書道科教育研究1・2
文学部	助教	阿部 美香	地誌学a・b
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育研究1・2
人間科学部	教授	小峰 直史	教職入門
人間科学部	教授	永野由紀子	社会学原論b
人間科学部	教授	樋口 博美	社会学原論a
経済学部	兼任講師	長船 孝明	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科教育研究1・2
経済学部	兼任講師	別府さおり	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	教育実習1・2・3
法学部	兼任講師	相賀由美子	道德教育指導論
法学部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法学部	兼任講師	松村 芳明	法律学a・b
法学部	兼任講師	山口 晶子	教育社会学
法学部	兼任講師	吉田 武男	道德教育指導論
経営学部	兼任講師	白岩 伸也	教育原論
経営学部	兼任講師	半田 勝久	教育法学
経営学部	兼任講師	堀内 泰利	情報と職業
商学部	兼任講師	五十嵐卓司	社会科教育研究3・4
商学部	兼任講師	生田 清人	地理学a・b
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学a・b
商学部	兼任講師	佐藤 由美	地理歴史科教育研究1・2
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論a・b
商学部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究3・4
商学部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史a・b
文学部	客員教授	神山 安弘	教職実践演習
文学部	兼任講師	荒畑 隆	地誌学a・b

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	市川 康夫	地誌学a・b
文学部	兼任講師	内門 亮子	書道a
文学部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論a・b
文学部	兼任講師	小泉 秀人	外国史a・b
文学部	兼任講師	小長野航太	倫理学a・b
文学部	兼任講師	小林 孝秀	日本史a・b
文学部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学a・b
文学部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育研究1・2
文学部	兼任講師	中島惠美子	書道b
文学部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究3・4
文学部	兼任講師	福島 大我	外国史a・b
文学部	兼任講師	古田 徹也	倫理学a・b
文学部	兼任講師	正野 泰周	倫理学a・b
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究1・2
文学部	兼任講師	山田 朋子	外国史a・b
文学部	兼任講師	山本 幸博	書道a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究1・2
人間科学部	兼任講師	渡辺 彰規	社会学原論a・b

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	教授	植村 八潮	図書館サービス特論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習2
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習2
経営学部	兼任講師	鍋田 拓哉	図書館情報資源概論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	汐崎 順子	図書館サービス特論
文学部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文学部	兼任講師	戸田あきら	図書館制度・経営論
文学部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習2
文学部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文学部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
文学部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	栗原 浩美	学校教育概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習1

《学芸員》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文学部	教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論

データ編

Pano a Pano

## 編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

「パッソ・ア・パッソ」とはイタリア語で、「一歩一歩」という意味だという。資格課程の教員の重鎮であり、私の所属する経営学部の大先輩であった嶺井正也先生の命名になるタイトルであったと記憶している。いまから振り返ると、このタイトルはまさに至言というべきものと、思わず膝を叩きたくなるのは、私一人だけだろうか。大学生は入学して一年生となる。その日から、転換・導入教育課程科目、教養教育課程科目および専門教育課程科目を学び、四年間で卒業する。その学問は、いわば小学校一年生の時から積み上げてきた「学び」の最終段階、つまり総仕上げというべきものといえよう。子供が大人になり、やがて社会に巣立つための「滑走路」にも譬えられるかもしれない。だが、読み書きそろばんというリテラシーにしても、多様にして複雑な専門的な知識や経験にしても、すべては「一歩一歩」という気の遠くなるような繰り返しと積み重ねによって成り立っていることを忘れてはならない。教職、司書、司書教諭、学校司書、そして学芸員という資格課程もまた例外ではないだろう。将来を見据えて、これらの資格にチャレンジした学生諸君は、資格取得の暁に、そのはらかな道程を振り返り、よくぞここまでたどり着いたものだと感じと喜びを新たにすることに違いない。しかし、これから資格課程にトライしようと考えている学生諸君、どうか怖気づいたり、怯んだりしないでほしい。なぜなら、その長く険しい道筋を見事に踏破したほとんどの先輩たちは、抜きん出た特別な能力や、他人を驚かすほどの強靱な意思を持ち合わせていたわけではないのだから。彼らは、ただひたすら「一歩一歩」前進し続けた。倦まず、弛まず、諦めず、ひたすら前へ前へと歩みを進めたのである。どんな人間にも可能な、夢の実現に至る最も手堅い手段は、「一歩一歩」あるのみだということをお忘れしないでほしい。最後に、本書にご執筆を賜りました皆様に、紙面を借りて心より御礼申し上げます。

編集委員長

内田 欽三

編集委員

角田真紀子

松尾 治

荻原 幸子

### 令和元（平成31）年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 令和2年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



100周年記念

専修大学